AX7800R AX7700R

AX7800R • AX7700R ルーティング・ソフトウェアマニュアル訂正資料 (Ver. 10.10 対応 Rev.1)



■ はじめに

本資料は、AX7800R・AX7700Rシリーズのマニュアル (Copyright (c) 2005, 2011, ALAXALA Networks Corporation. All rights reserved.)の訂正内容について説明するものです。本装置をご使用になる時は、この資料を必ず お読みください。本資料の対象となるマニュアル一覧を以下に示します。

項番	マニュアル名称	マニュアル番号
1	AX7800R・AX7700R ソフトウェアマニュアル 解説書 Vol.1	AX-10-002-K0
	(Ver. 10.10 対応 Rev.1)	
2	AX7800R・AX7700R ソフトウェアマニュアル 解説書 Vol.2	AX-10-003-K0
	(Ver. 10.10 対応 Rev.1)	
3	AX7800R·AX7700R ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションガイド	AX-10-004-K0
	(Ver. 10.10 対応 Rev.1)	
4	AX7800R・AX7700R ソフトウェアマニュアル 運用ガイド	AX-10-005-K0
	(Ver. 10.10 対応 Rev.1)	
5	AX7800R・AX7700R ソフトウェアマニュアル	AX-10-008-K0
	コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1 (Ver. 10.10 対応 Rev.1)	
6	AX7800R・AX7700R ソフトウェアマニュアル	AX-10-009-K0
	コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol. 2 (Ver. 10.10 対応 Rev. 1)	
7	AX7800R・AX7700R ソフトウェアマニュアル	AX-10-010-K0
	運用コマンドレファレンス Vol.1 (Ver. 10.10 対応 Rev.1)	
8	AX7800R・AX7700R ソフトウェアマニュアル	AX-10-011-K0
	運用コマンドレファレンス vol.2 (Ver. 10.10対応 Rev.1)	
9	AX7800R・AX7700R ソフトウェアマニュアル	AX-10-012-K0
	メッセージ・ログレファレンス(Ver. 10.10 対応 Rev.1)	
1 0	AX7800R・AX7700R ソフトウェアマニュアル	AX-10-013-K0
ī	MIB レファレンス(Ver. 10.10 対応 Rev.1)	

■ 商標一覧

- ・Cisco は、米国 Cisco Systems, Inc. の米国および他の国々における登録商標です。
- ・Ethernet は、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
- ・JP1 は、(株) 日立製作所の日本における商品名称(商標又は、登録商標)です。
- ・Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・NetFlow は米国およびその他の国における米国 Cisco Systems, Inc. の登録商標です。
- Octpower は、日本電気 (株) の登録商標です。
 OpenView は、Hewlett-Packard Company の商標です。
- ・sFlow は、米国およびその他の国における米国 InMon Corp. の登録商標です。
- ・Solaris は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標 または商標です。
- ・UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。
- ・Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・イーサネットは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
- ・そのほかの記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

このマニュアル訂正資料は、改良のため、予告なく変更する場合があります。

■ 発行

2014年3月18日発行(第8版)

■ 著作権

All Rights Reserved, Copyright (C), 2005, 2014, ALAXALA Networks, Corp.

変更履歴

表 【第8版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
6. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol. 2 Ver. 10. 10 (AX-10-009-KO)	[10] logger-smtp(SMTP サーバ情報)【訂正】
	[11] ntp(NTP情報)【追加】

表 【第7版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
6. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol. 2	17.1.8 ルーティングプロトコル【訂正】
Ver. 10. 10 (AX-10-009-K0)	
7. 運用コマンドレファレンス Vol. 1 Ver. 10. 10	[2] configure(configure terminal)【追加】
(AX-10-010-K0)	[6] synchronize【追加】
	[8] copy running-config【追加】
	[8] copy startup-config【追加】
	[8] copy backup-config【追加】
	[8] erase startup-config【追加】
8. 運用コマンドレファレンス Vol. 2 Ver. 10. 10	[2] traceroute ipv6【訂正】
(AX-10-011-K0)	

表 【第6版】に関する訂正内容

項目	追加•変更内容
8. 運用コマンドレファレンス Vol. 2 Ver. 10. 10	[1] show ip-dual interface(IPv4)【訂正】
(AX-10-011-K0)	[2] show ip-dual interface(IPv6)【訂正】
	[2] show ipv6 interface【訂正】
10.MIB レファレンス Ver.10.10 (AX-10-013-KO)	2.23.2 dot3adAggPortグループ【訂正】
	3.5.4 axrFlowQos グループ【訂正】

表 【第5版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
2. 解説書 Vol. 2 Ver. 10. 10 (AX-10-003-K0)	1.8.2 階層化シェーパ【訂正】
	1.11.8 階層化シェーパを使用する上での注意点【訂正】
7. 運用コマンドレファレンス Vol. 1 Ver. 10. 10	[16] set calendar【訂正】
(AX-10-010-K0)	

表 【第4版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
4. 運用ガイド Ver. 10. 10(AX-10-005-KO)	3.1.2 コマンド入力モード【訂正】
7. 運用コマンドレファレンス Vol. 1 Ver. 10. 10	[10] show system【訂正】
(AX-10-010-K0)	[10] reload【訂正】
8. 運用コマンドレファレンス Vol. 2 Ver. 10. 10	[1] clear ip dhcp binding【訂正】
(AX-10-011-K0)	
9. メッセージ・ログレファレンス Ver. 10. 10	3.4.2 イベント発生部位=CP【訂正】【削除】
(AX-10-012-K0)	3.6.1 イベント発生部位=MC【訂正】
	3.7.1 イベント発生部位=BCU【訂正】
10.MIB レファレンス Ver.10.10 (AX-10-013-KO)	2.11 snmp グループ(MIB-II)【追加】

表 【第3版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
1. 解説書 Vol. 1 Ver. 10. 10 (AX-10-002-K0)	7.4.2 ICMP【訂正】
7. 運用コマンドレファレンス Vol. 1 Ver. 10. 10	[3] killuser【訂正】
(AX-10-010-K0)	[7] copy mc【訂正】
	[7] format mc【訂正】
	[8] cd【追加】
	[8] pwd【追加】
	[8] ls【追加】
	[8] cat【追加】
	[8] cp【追加】
	[8] mkdir【追加】
	[8] mv【追加】
	[8] rm【追加】
	[8] rmdir【追加】
	[8] chmod【追加】
	[9] diff【追加】
	[9] grep(egrep, fgrep)【追加】
	[9] more【追加】
	[9] less【追加】
	[9] vi【追加】
	[9] sort【追加】
	[9] tail【追加】
	[9] hexdump【追加】
	[11] close nif【訂正】
	[11] free nif【訂正】
	[15] dump cp【訂正】
	[15] dump pru【訂正】
	[15] dump nif【訂正】
	[17] close(イーサネット)【訂正】
	[17] free(イーサネット)【訂正】
	[17] test interfaces(イーサネット)【訂正】
	[17] no test interfaces(イーサネット)【訂正】
	[19] close(POS)【訂正】
	[19] free(POS)【訂正】
	[19] test interfaces(POS)【追加】
	[19] no test interfaces(POS)【訂正】
8. 運用コマンドレファレンス Vol. 2 Ver. 10. 10	[1] ping【訂正】
(AX-10-011-K0)	[1] traceroute【追加】
	[1] clear tcp(IPv4)【訂正】
	[1] clear ip dhcp binding【訂正】
	[1] restart dhcp【訂正】
	[2] ping ipv6【訂正】
	[2] clear tcp(IPv6)【訂正】
	[2] clear ipv6 dhcp binding【訂正】
	[2] restart ipv6-dhcp server【訂正】
	[3] show ip static【追加】
	[4] clear ip mroute【訂正】
	[6] show ipv6 static【追加】
	[10] clear mode【訂正】
	[11] swap vrrp(IPv4)【訂正】
	[11] swap vrrp(IPv6)【訂正】

表 【第2版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
1. 解説書 Vol. 1 Ver. 10. 10 (AX-10-002-K0)	3.2.1 AX7800R の収容条件【AX7800R】【訂正】
	3.2.2 AX7700R の収容条件【AX7700R】【訂正】
	7.5.2 ブロードキャストパケットの中継方法【訂正】
	12.6.2 冗長経路(回線障害などによる経路切り替え)【訂正】
	16.6.2 冗長経路(回線障害などによる経路切り替え)【訂正】
2. 解説書 Vol. 2 Ver. 10. 10(AX-10-003-K0)	6.1.1 概要【訂正】
5. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol. 1	[4] link-aggregation (リンクアグリゲーション情報)【訂
Ver. 10. 10 (AX-10-008-K0)	正】
	[12] relay-interface (relay インタフェース情報) 【追加】
6. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol. 2	[11] ntp(NTP 情報)【追加】
Ver. 10. 10 (AX-10-009-K0)	
7. 運用コマンドレファレンス Vol. 1 Ver. 10. 10	[16] rdate【訂正】
(AX-10-010-K0)	[[]] () [[] [] [] [] [] [] [] [] []
8. 運用コマンドレファレンス Vol. 2 Ver. 10. 10	[1] show netstat(netstat)(IPv4)【訂正】
(AX-10-011-K0)	[1] show filter-flow(IPv4)【訂正】
	[1] clear filter-flow(IPv4)【訂正】
	[2] show netstat(netstat)(IPv6)【訂正】
	[9] show qos ip-flow【訂正】
	[9] clear qos ip-flow 【訂正】
9. メッセージ・ログレファレンス Ver. 10. 10	3.4.1 イベント発生部位=RM【訂正】
(AX-10-012-K0)	3.6.1 イベント発生部位=MC【追加】
	3.7.1 イベント発生部位=BCU【追加】
10. MIB レファレンス Ver. 10. 10 (AX-10-013-KO)	4.1 サポートトラップおよび発行契機【訂正】
	4.2 サポートトラップ -PDU 内パラメータ【訂正】

目 次

1.	解説書 Vol.1 Ver.10.10(AX-10-002-K0)の訂正内容	7
2.	解説書 Vol.2 Ver.10.10(AX-10-003-K0)の訂正内容	19
3.	コンフィグレーションガイド Ver.10.10 (AX-10-004-K0) の訂正内容	23
4.	運用ガイド Ver.10.10(AX-10-005-K0)の訂正内容	24
5.	コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1 Ver.10.10 (AX-10-008-K0) の訂正内容	25
6.	コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.2 Ver.10.10 (AX-10-009-K0) の訂正内容	26
7.	運用コマンドレファレンス Vol.1 Ver.10.10 (AX-10-010-K0) の訂正内容	29
8.	運用コマンドレファレンス Vol.2 Ver.10.10 (AX-10-011-K0) の訂正内容	52
9.	メッセージ・ログレファレンス Ver.10.10 (AX-10-012-K0) の訂正内容	62
10.	MIB レファレンス Ver.10.10 (AX-10-013-K0) の訂正内容	68

1. 解説書 Vol. 1 Ver. 10. 10 (AX-10-002-K0) の訂正内容

3. 収容条件 (P35~P130)

(1) 3. 2. 1 AX7800Rの収容条件【AX7800R】【訂正】

「(4)基本制御機構(BCU)のメモリ量と収容経路エントリ数の表 3-19 基本制御機構のメモリ量と収容経路エントリ数(IPv4 だけを使用し, BGP4 を使用する)(P50~P51)」を訂正します。[Ver. 10. 10. K 以降]

【訂正内容】

(b) PRU-B2, PRU-B2B, PRU-C2, PRU-D2およびPRU-D2Bのテーブルエントリ数の配分パターン router-b2 の場合

BGP4 をご使用ください。

表 3-19 基本制御機構のメモリ量と収容経路エントリ数 (IPv4 だけを使用し、BGP4 を使用する)

BCU最 小所要		IPv4ユニキャスト				IPv4 インタ	フィルタ/QoSエントリ 数 ^{※12}		備考	
メモリ 量	最大経路エントリ数		プロトコル別 最大経路エントリ数		ARPエン トリ数	フェー ス数				
	アクティ ブ/非ア クティブ の合計	アクティ ブ	RIP +0SPF +IS-IS	BGP4	スタティック			フロー検出 条件モード の指定なし	フロー検 出条件モ ード2を 指定	
256MB**	20,000	20, 000	5,000	20, 000	2, 048	65, 536	2, 048	10, 000	10,000	_
512MB	250,000	163, 840	30,000	250,000	4, 096		4, 096	20, 000	20, 000	_
768MB	450, 000	262, 144		450, 000	8, 192	131,072	8, 192	50, 000 *1	50, 000 **1	_
1024MB	650,000	393, 216		650,000	16, 384		16, 383	100,000	256, 000	_
	1,000,000	524, 288		1,000,000				% 1	*1	* 5
追加	1, 500, 000			1, 500, 000		8, 192	2,048			* 3

(凡例) -:該当なし

「(8)ルーティングリソース (b)経路エントリ数と最大隣接ルータ数の関係の表 3-37 経路エントリ数と最大ピア数の関係 (IPv4 だけ)【OP-BGP】(P64)」を訂正します。 [Ver. 10. 10. K 以降]

【訂正内容】

表 3-37 経路エントリ数と最大ピア数の関係(IPv4 だけ)【OP-BGP】

ルーティングプロト コル			最大経路エントリ	最大隣接ピア数 ※2%3%4%5	
BGP4	2	512MB	120,000	256	
			160,000	256	
			200,000	0	
			320,000	×	
		768MB	120,000	256	
			160,000	256	
			200,000	256	
			320,000	0	
		追加▶	500,000	×	
		1024MB	120,000	256	
			160,000	256	
			200,000	256	
			320,000	256	
		追加→	500,000	32	
	3	512MB	120,000	256	
			160,000	32	
			200,000	×	
			320,000	×	
		768MB	120,000	256	
			160,000	256	
			200,000	256	
			320,000	×	
		1024MB	120,000	256	
			160,000	256	
			200, 000	256	
			320,000	256	
		追加→	500,000	32 **6	
	4	512MB	120,000	256	
			160, 000	×	
			200, 000	×	
			250, 000	×	
		768MB	120,000	256	
			160,000	256	

ルーティングプロト コル	上位ピア数※1	BCUの実装メモリ	最大経路エントリ	最大隣接ピア数 ※2※3※4※5
			200,000	256
			250,000	×
		1024MB	120,000	256
			160,000	256
			200,000	256
			250,000	256
		追加→	360,000	32 *6

「表 3-37 および表 3-38 の注釈 (P65~P66)」を訂正します。[Ver. 10. 10. K 以降]

【訂正内容】

注※ 1

上位ピア数とは、最大経路エントリ数を広告してくるピアの数を示します。

注※ 2

最大隣接ピア数とは、上位ピアから受信した経路を広告するピアの数を示します。表に示す値はマルチキャスト未使用で、かつマルチパス数が4、送受信フィルタリングによる属性変更なしの場合の値です。

注※ 3

BGP4 と BGP4+ は独立動作です。BGP4 と BGP4+ それぞれでこの表に示す最大隣接ピア数を使用できます。

注※ 4

「最大隣接ピア数=0」は「上位ピアからの BGP 経路を受け取ることはできるが、隣接ピアに広告することはできない」ことを意味します。

注※ 5

「最大隣接ピア数= ×」は「上位ピアからの BGP 経路を受け取ることができない」 ことを意味します。

追加

PRU-B2, PRU-B2B, PRU-C2, PRU-D2 および PRU-D2B のテーブルエントリ数の配分パターン router-b2 の場合でかつマルチパス未使用の場合の値です。

(2) 3. 2. 2 AX7700Rの収容条件【AX7700R】【訂正】

「(4)基本制御機構(BCU)のメモリ量と収容経路エントリ数の表 3-84 基本制御機構のメモリ量と収容経路エントリ数(IPv4 だけを使用し, BGP4 を使用する)(P97~P98)」を訂正します。[Ver. 10. 10. K 以降]

【訂正内容】

(b) PRU-E2, PRU-D2 およびRE1-10G4RX のテーブルエントリ数の配分パターン router-b2 の場合 BGP4 をご使用ください。

表 3-84 基本制御機構のメモリ量と収容経路エントリ数 (IPv4 だけを使用し, BGP4 を使用する)

BCU最 小所要	IPv4ユニキャスト						IPv4 インタ	フィルタ/QoSエントリ 数 ^{※12}		備考
メモリ 量	最大経路工	ントリ数	最之	プロトコル別 最大経路エントリ数		ARPエン トリ数	フェー ス数			
	アクティ ブ/非ア クティブ の合計	アクティ ブ	RIP +OSPF +IS-IS	BGP4	スタティック			フロー検出 条件モード の指定なし	フロー検 出条件モ ード2を 指定	
256MB**	20, 000	20, 000	5,000	20, 000	2, 048	65, 536	2, 048	10,000	10,000	_
512MB	250,000	163, 840	30,000	250,000	4, 096		4, 096	20, 000	20, 000	_
768MB	450, 000	262, 144		450, 000	8, 192	131, 072	8, 192	32, 000 *1	50, 000 *1	_
1024MB	650,000	393, 216		650,000	16, 384		16, 383	32, 000	64, 000	_
	1,000,000	524, 288		1,000,000				*1	*1	% 5
追加	1, 500, 000			1, 500, 000		8, 192	2,048			* 3

(凡例) -:該当なし

「(8)ルーティングリソース (b)経路エントリ数と最大隣接ルータ数の関係の表 3-102 経路エントリ数と最大ピア数の関係 (IPv4 だけ)【OP-BGP】(P111~P112)」を訂正します。[Ver. 10. 10. K 以降]

【訂正内容】

表 3-102 経路エントリ数と最大ピア数の関係(IPv4 だけ)【OP-BGP】

レーティングプロト コル	上位ピア数※1	BCUの実装メモリ	最大経路エントリ	最大隣接ピア数 ※2※3※4※5
BGP4	2	512MB	120,000	256
			160,000	256
			200, 000	0
			320, 000	×
		768MB	120,000	256
			160,000	256
			200, 000	256
			320, 000	0
		追加→	500, 000	×
		1024MB	120,000	256
			160,000	256
			200,000	256
			320,000	256
		追加→	500,000	32
	3	512MB	120,000	256
			160,000	32
			200, 000	×
			320,000	×
		768MB	120,000	256
			160,000	256
			200, 000	256
			320, 000	×
		1024MB	120, 000	256
			160, 000	256
			200, 000	256
			320, 000	256
		追加→	500, 000	32 ^{**6}
	4	512MB	120, 000	256
			160, 000	×
			200, 000	×
			250, 000	×
		768MB	120,000	256
			160,000	256

ルーティングプロト コル	上位ピア数※1	BCUの実装メモリ	最大経路エントリ	最大隣接ピア数 ※2※3※4※5
			200,000	256
			250,000	×
		1024MB	120,000	256
			160,000	256
			200,000	256
			250,000	256
		追加 →	360,000	32 **6

「表 3-102 および表 3-103 の注釈 (P113~P114)」を訂正します。[Ver. 10. 10. K 以降]

【訂正内容】

注※ 1

上位ピア数とは、最大経路エントリ数を広告してくるピアの数を示します。

注※ 2

最大隣接ピア数とは、上位ピアから受信した経路を広告するピアの数を示します。表に示す値はマルチキャスト未使用で、かつマルチパス数が4、送受信フィルタリングによる属性変更なしの場合の値です。

注※ 3

BGP4 と BGP4+ は独立動作です。BGP4 と BGP4+ それぞれでこの表に示す最大隣接ピア数を使用できます。

注※ 4

「最大隣接ピア数=0」は「上位ピアからの BGP 経路を受け取ることはできるが、隣接ピアに広告することはできない」ことを意味します。

注※ 5

「最大隣接ピア数= ×」は「上位ピアからの BGP 経路を受け取ることができない」 ことを意味します。

追加 注※

PRU-E2, PRU-D2 および RE1-10G4RX のテーブルエントリ数の配分パターン router-b2 の場合でかつマルチパス未使用の場合の値です。

7. IPv4パケット中継 (P197~P257)

(1) 7. 4. 2 ICMP【訂正】

「表 7-3 ICMP メッセージサポート仕様(値は 10 進) (P204)」を訂正します。

【訂正内容】

表 7-3 ICMP メッセージサポート仕様(値は 10 進)

		サポート			
タイプ(種別)		コード(詳細種別)			
_	値	_	値		
Destination Unreachable	3	Net Unreachable	0	0	
		Host Unreachable	1	0	
		Protocol Unreachable	2	× ←	一訂正
		Port Unreachable	3	0	
		Fragmentation Needed and DF	4	0	
		Set			
		Source Route Failed	5	0	
		Destination Network Unknown	6	×	
		Destination Host Unknown	7	×	
		Network Unreachable for Type of	11	×	
		Service			
		Host Unreachable for Type of	12	×	
		Service			
		Communication Administratively	13	0	
		Prohibited			
		Host Precedence Violation	14	×	
		Precedence Cutoff in Effect	15	×	
<u>: : : : : : : : : : : : : : : : : : : </u>	:	:	:	:	

(2) 7.5.2 ブロードキャストパケットの中継方法【訂正】

「(3)オールサブネットブロードキャスト (P212)」を訂正します。

【訂正前】

(3) オールサブネットブロードキャスト

オールサブネットワークブロードキャストとは、サブネットワーク化されたすべてのネットワークに対するブロードキャストです。

例えば、100.1.0.0/16 のネットワークをサブネットワーク化して、100.1.1.0/24 と 100.1.2.0/24 の 二つのサブネットワークに分割して使用している場合に、100.1.255.255 を宛先とするオールサブネットワークブロードキャストの IP パケットが送信された場合、100.1.1.0/24 と 100.1.2.0/24 のサブネットワーク を直接接続する本装置までは該当パケットが届きますが、本装置配下の 100.1.1.0/24 と 100.1.2.0/24 のサブネットワークへは中継しないで本装置で該当パケットを廃棄します。オールサブネットワークブロードキャストを次の図に示します。

【訂正後】

(3) オールサブネットブロードキャスト

オールサブネットワークブロードキャストとは、サブネットワーク化されたすべてのネットワークに対するブロードキャストです。本装置ではオールサブネットブロードキャストを通常の経路として扱います。

例えば、100.1.0.0/16 のネットワークをサブネットワーク化して、100.1.1.0/24 と 100.1.2.0/24 の 二つのサブネットワークに分割して使用している場合に、100.1.255.255 を宛先とするオールサブネットワークブロードキャストの IP パケットが送信された場合、100.1.1.0/24 と 100.1.2.0/24 のサブネットワークを直接接続する本装置までは該当パケットが届きますが、本装置配下の 100.1.1.0/24 と 100.1.2.0/24 のサブネットワークへは中継しないで本装置で該当パケットを廃棄します。なお、デフォルト経路などほかに一致する経路がある場合、その経路を使用して IP パケットが送信されます。オールサブネットワークブロードキャストを次の図に示します。

12. IPv4 マルチキャスト【OP-MLT】(P427~P486)

(1)12.6.2 冗長経路(回線障害などによる経路切り替え)【訂正】

「(1)PIM-SMの使用 (P479)」を訂正します。「Ver. 10. 10. H以降]

【訂正前】

<省略>

●回線復旧によって冗長経路から優先経路に切り替わった場合,通信再開までには次に示す時間 が掛かることがあります。

0~(送信者方向の Hello 送信周期 +20) 秒 (デフォルトでは 30+20=50 秒)

●ランデブーポイントおよび BSR が本装置に切り替わった(障害やコンフィグレーションなどでランデブーポイントおよび BSR を本装置にする)場合,通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。

通信再開までの時間は、ランデブーポイントまたは BSR で異なります。括弧内はデフォルト値を示します。

<省略>

【訂正後】

<省略>

●回線復旧によって冗長経路から優先経路に切り替わった場合,通信再開までには次に示す時間 が掛かることがあります。

0秒

ただし、切り戻りにかかる時間は次に示す時間が掛かります。

U+ (送信者方向の PIM-Hello メッセージの送信周期+20) 秒(デフォルトでは U+30+20= U+50 秒)

●ランデブーポイントおよび BSR が本装置に切り替わった(障害やコンフィグレーションなどでランデブーポイントおよび BSR を本装置にする)場合,通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。

通信再開までの時間は、ランデブーポイントまたは BSR で異なります。括弧内はデフォルト値を示します。

「(2) PIM-SSM の使用 (P480)」を訂正します。 [Ver. 10. 10. H 以降]

【訂正前】

<省略>

●回線復旧により冗長経路から優先経路に切り戻った場合,通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。

0秒

ただし、切り戻りには次に示す時間が掛かります。

U+0~(送信者方向の Hello 送信周期+20)秒 (デフォルトでは 30+20=50 秒)

●DR が本装置に切り替わった場合,通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。括 弧内はデフォルト値を示します。

<省略>

【訂正後】

<省略>

●回線復旧により冗長経路から優先経路に切り戻った場合,通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。

0秒

ただし、切り戻りにかかる時間は次に示す時間が掛かります。

U+ (送信者方向の PIM·Hello メッセージの送信周期+20) 秒 (デフォルトでは U+30+20= U+50 秒)

●DR が本装置に切り替わった場合,通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。括 弧内はデフォルト値を示します。

16. IPv6 マルチキャスト【OP-MLT】(P617~P655)

(1) 16.6.2 冗長経路(回線障害などによる経路切り替え)【訂正】

「(1) IPv6 PIM-SMの使用 (P650)」を訂正します。「Ver. 10. 10. H 以降]

【訂正前】

<省略>

●回線復旧により冗長経路から優先経路に切り戻った場合,通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。

0~(送信者方向の Hello 送信周期+20) 秒 (デフォルトでは 30+20=50 秒)

●ランデブーポイントおよび BSR が本装置に切り替わった(障害やコンフィグレーションなどでランデブーポイントおよび BSR を本装置にする)場合,通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。

<省略>

【訂正後】

<省略>

●回線復旧により冗長経路から優先経路に切り戻った場合,通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。

0秒

ただし、切り戻りにかかる時間は次に示す時間が掛かります。

U+ (送信者方向の PIM-Hello メッセージの送信周期+20) 秒(デフォルトでは U+30+20= U+50 秒)

●ランデブーポイントおよび BSR が本装置に切り替わった(障害やコンフィグレーションなどでランデブーポイントおよび BSR を本装置にする)場合,通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。

「(2) IPv6 PIM-SSM の使用 (P651)」を訂正します。 [Ver. 10. 10. H 以降]

【訂正前】

<省略>

●回線復旧により冗長経路から優先経路に切り戻った場合,通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。

0秒

ただし, 切り戻りには次に示す時間が掛かります。

U+0~(送信者方向の Hello 送信周期+20)秒 (デフォルトでは 30+20=50 秒)

●DR が本装置に切り替わった場合,通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。括 弧内はデフォルト値を示します。

<省略>

【訂正後】

<省略>

●回線復旧により冗長経路から優先経路に切り戻った場合,通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。

0秒

ただし、切り戻りにかかる時間は次に示す時間が掛かります。

U+ (送信者方向の PIM-Hello メッセージの送信周期+20) 秒 (デフォルトでは U+30+20= U+50 秒)

●DR が本装置に切り替わった場合,通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。括 弧内はデフォルト値を示します。

2. 解説書 Vol. 2 Ver. 10. 10 (AX-10-003-K0) の訂正内容

1. QoS制御 (P1~P55)

(1) 1. 8. 2 階層化シェーパ【訂正】

「(1)アグリゲートキュー帯域制御(a)制御方式(P37)」を訂正します。

【訂正前】

<省略>

条剰帯域は、デフォルトではユーザ間で均等に分配します。また、設定によってユーザ単位に余剰帯域の分配比率(重み)を決めることができます。分配比率に応じた余剰帯域の計算例を次の表に示します。この表ではポート帯域制御によって回線帯域を 900Mbit/s にシェーピングする場合を想定します。計算を簡単にするため、ユーザ数を三つにします。

表 1-29 余剰帯域の計算例

割り当て ユーザ	入力帯域 (Mbit/s)	最低帯域 (Mbit/s)	最大帯域 (Mbit/s)	余剰帯域 分配比率	余剰帯域 (Mbit/s) [※]	実際の 送信帯域 (Mbit/s)
VLAN1	400	200	900	3	150	350
VLAN2	350	200	900	2	100	300
VLAN1023	250	200	900	1	50	250

注※ 回線内の余剰帯域=回線帯域-各ユーザごとの最低帯域の合計

=900-(200+200+200)=300(Mbit/s)

VLAN1 の余剰帯域=300×(3÷(3+2+1))=150(Mbit/s)

VLAN2 の余剰帯域=300×(2÷(3+2+1))=100(Mbit/s)

VLAN1023 の余剰帯域=300×(1÷(3+2+1))=50(Mbit/s)

【訂正後】

<省略>

余剰帯域は、デフォルトではユーザ間で均等に分配します。また、設定によってユーザ単位に余剰帯域の分配比率(重み)を決めることができます。分配比率に応じた余剰帯域の計算例を次の表に示します。この表ではポート帯域制御によって回線帯域を 900Mbit/s にシェーピングする場合を想定します。計算を簡単にするため、ユーザ数を三つにします。

表 1-29 余剰帯域の計算例

(回線帯域=900Mbit/s)

割り当て ユーザ	実際の 入力帯域 (Mbit/s)	最低帯域 (Mbit/s) ※1	最大帯域 (Mbit/s) ※ ²	重み ※1	余剰帯域 (Mbit/s) ※ ³	保証帯域 (Mbit/s) ※ ⁴	実際の 送信帯域 (Mbit/s)
VLAN1	400	200	900	3	150	350	350
VLAN2	350	200	900	2	100	300	300
VLAN1023	250	200	900	1	50	250	250

注※1

各ユーザに保証される帯域は、最低帯域に重みによって分配される余剰帯域を加えたものになります。各ユーザに対して保証すべき帯域を考慮した上で、各ユーザの最低帯域や重みを決定してください。

注※2

各ユーザの帯域リソース分配は、最低帯域に重みによって分配される余剰帯域を加えたものによって行われるため、各ユーザの帯域リソース分配のために最大帯域を回線帯域より小さい値に設定しないでください。回線帯域に比べて小さい値を設定すると、回線帯域の利用効率が低下する場合があります。

注※3

回線内の余剰帯域=回線帯域-各ユーザの最低帯域の合計 =900-(200+200+200)=300 (Mbit/s)

VLAN1 の余剰帯域=300×(3÷(3+2+1))=150 (Mbit/s)

VLAN2 の余剰帯域= $300 \times (2 \div (3+2+1))=100$ (Mbit/s)

VLAN1023 の余剰帯域=300×(1÷(3+2+1))=50 (Mbit/s)

注※4

各ユーザの保証帯域 (最大帯域以下)

=各ユーザの最低帯域+各ユーザに分配された余剰帯域

VLAN1の保証帯域=200+150=350 (Mbit/s)

VLAN2の保証帯域=200+100=300 (Mbit/s)

VLAN1023 の保証帯域=200+50=250 (Mbit/s)

(2) 1. 11. 8 階層化シェーパを使用する上での注意点【訂正】

「1.11.8 階層化シェーパを使用する上での注意点(P55)」を訂正します。

【訂正前】

1.11.8 階層化シェーパを使用する上での注意点

1. ARP などの制御系パケットの送信時や回線テストの実施時には、デフォルトのアグリゲートキューを使用します。したがって、階層化シェーパ機能を設定した物理回線のデフォルトアグリゲートキューに帯域を割り当てるように設定してください。

【訂正後】

1.11.8 階層化シェーパ使用時の注意事項

- 1. ARP などの制御系パケットの送信時や回線テストの実施時には、デフォルトのアグリゲートキューを使用します。したがって、階層化シェーパ機能を設定した物理回線のデフォルトアグリゲートキューに帯域を割り当てるように設定してください。
- 2. RGQ による帯域制御の注意事項を次に示します。
- ・各ユーザに保証される帯域は、最低帯域に重みによって分配される余剰帯域を加えたものになります。各ユーザに対して保証すべき帯域を考慮した上で、各ユーザの最低帯域や重みを決定してください。
- ・各ユーザの帯域リソース分配は、最低帯域に重みによって分配される余剰帯域を加えたものによって行われるため、各ユーザの帯域リソース分配のために最大帯域を回線帯域より小さい値に設定しないでください。各ユーザの最大帯域を回線帯域に比べて小さい値を設定すると、回線帯域の利用効率が低下する場合があります。

例えば、ポート帯域制御によって回線帯域を 600Mbit/s にシェーピングし、ユーザ 1/2/3 で輻輳時に 3:2:1 で帯域リソースを分配する例を示します。表 1-46 の設定例では各ユーザの最大帯域は回線帯域 と同じ値なので、ユーザの保証帯域内で未使用帯域が存在した場合(ユーザ 2)、その未使用帯域を 他ユーザ(ユーザ 1 およびユーザ 3)が有効活用でき、各ユーザの送信帯域の合計は回線帯域と同じ

になります。表 1-47 の設定例ではユーザ 3 の最大帯域が回線帯域より小さい値に設定され、ユーザ 3 で最大帯域を越える帯域のトラフィックが入力されています。このときにユーザの保証帯域内で未 使用帯域が存在した場合 (ユーザ 2)、その未使用帯域を他ユーザ (ユーザ 1) が有効活用しきれず に、各ユーザの送信帯域の合計が回線帯域を下回る場合があります。

表 1-46 RGQ の設定例および送信帯域

(回線帯域=600Mbit/s)

割り当て ユーザ	実際の 入力帯域 (Mbit/s)	最低帯域 (Mbit/s)	最大帯域 (Mbit/s)	重み	余剰帯域 (Mbit/s)	保証帯域 (Mbit/s)	実際の 送信帯域 (Mbit/s)
ユーザ 1	500	300	600	3	0	300	380*1
ユーザ 2	100	200	600	2	0	200	100
ユーザ 3	150	100	600	1	0	100	120*1

(各ユーザの送信帯域の合計=600Mbit/s)

注※1 保証帯域を超えた送信帯域は、入力トラフィック条件等によって変化します。本帯域を保証するものではありません。各ユーザで保証される帯域は、保証帯域までとなります。

表 1-47 RGQ の設定例および送信帯域

(回線帯域=600Mbit/s)

割り当て ユーザ	実際の 入力帯域 (Mbit/s)	最低帯域 (Mbit/s)	最大帯域 (Mbit/s)	重み	余剰帯域 (Mbit/s)	保証帯域 (Mbit/s)	実際の 送信帯域 (Mbit/s)
ユーザ1	500	300	600	3	0	300	330*1
ユーザ 2	100	200	600	2	0	200	100
ユーザ 3	150	100	100	1	0	100	100

(各ユーザの送信帯域の合計=530Mbit/s)

注※1 保証帯域を超えた送信帯域は、入力トラフィック条件等によって変化します。本帯域を保証するものではありません。各ユーザで保証される帯域は、保証帯域までとなります。

6. IEEE802. 3ah/UDLD (P133~P135)

(1)6.1.1 概要【訂正】

「6.1.1 概要の内容 (P134)」を訂正します。

【訂正前】

<省略>

IEEE802.3ah(Ethernet in the First Mile)で slow プロトコルの一部として位置づけられた OAM(Operations, Administration, and Maintenance)プロトコル (以下 IEEE802.3ah/OAM と示す)では、双方向リンク状態の監視を行うために、制御フレームを用いて定常的に対向装置と自装置の OAM 状態情報の交換を行い、相手装置とのフレームの到達性を確認する方式がとられています。本装置では IEEE802.3ah/OAM 機能を用いて双方向リンク状態の監視を行い、その確認がとれない場合に片方向リンク障害を検出する方式で UDLD 機能を実現しています。

<省略>

イーサネットケーブルで接続された片方の装置側のポートに障害検出モードを設定することで、 片方向リンク障害の検出動作を行います。正しく片方向リンク障害を検出させるためには、もう 一方の装置側のポートで IEEE802.3ah/OAM 機能が有効である必要があります。障害検出モード を設定したポートで片方向リンク障害を検出した場合、そのポートの閉塞処理をすることで対向 装置側のポートでもリンクダウンが検出され、接続された双方の装置で該当するポートにおける 運用を停止します。

【訂正後】

<省略>

IEEE802.3ah(Ethernet in the First Mile)で slow プロトコルの一部として位置づけられた OAM(Operations, Administration, and Maintenance)プロトコル(以下 IEEE802.3ah/OAM と示す)では、双方向リンク状態の監視を行うために、制御フレームを用いて定常的に対向装置と自装置の OAM 状態情報の交換を行い、相手装置とのフレームの到達性を確認する方式がとられています。本装置では IEEE802.3ah/OAM 機能を用いて双方向リンク状態の監視を行い、その確認がとれない場合に片方向リンク障害を検出する方式で UDLD 機能を実現しています。本装置の UDLD 機能では、片方向リンク障害の検出のほかに、自装置から送信した制御フレームを同一装置で受信した場合はループと判断し、受信したポートの閉塞も行います。

<省略>

イーサネットケーブルで接続された双方の装置のポートに障害検出モードを設定することで、片 方向リンク障害の検出動作を行います。障害検出モードを設定したポートで片方向リンク障害を 検出した場合、そのポートの閉塞処理をすることで対向装置側のポートでもリンクダウンが検出 され、接続された双方の装置で該当するポートにおける運用を停止します。

3. コンフィグレーションガイド Ver. 10. 10 (AX-10-004-K0) の訂正内容

訂正する内容はありません。

4. 運用ガイドVer. 10. 10 (AX-10-005-KO) の訂正内容

3. コマンド操作 (P13~P24)

(1) 3. 1. 2 コマンド入力モード【訂正】

「CLIプロンプト表示の説明 (P15)」を訂正します。

【訂正前】

<省略>

また、CLI プロンプトとして、次に示す場合でも、その状態を意味する文字がプロンプトの先頭に表示されます。

- 1. コンフィグレーションコマンド system の name パラメータで本装置のホスト名称を設定している場合,プロンプトに反映されます。
- 2. ランニングコンフィグレーションを編集し、その内容をスタートアップコンフィグレーション に保存していない場合、プロンプトの先頭に"!"が付きます。

<省略>

【訂正後】

<省略>

また、CLI プロンプトとして、次に示す場合でも、その状態を意味する文字がプロンプトの先頭に表示されます。

- 1. コンフィグレーションコマンド system の name パラメータで本装置のホスト名称を設定している場合,ホスト名称(先頭 20 文字まで)がプロンプトに反映されます。
- 2. ランニングコンフィグレーションを編集し、その内容をスタートアップコンフィグレーション に保存していない場合、プロンプトの先頭に"!"が付きます。

5. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1 Ver. 10. 10 (AX-10-008-K0) の訂正内容

4. ライン情報 (P85~P144)

(1)link-aggregation(リンクアグリゲーション情報)【訂正】

「サブコマンド max-active-port の本サブコマンド使用時の注意事項 (P140)」を訂正します。

【訂正前】

3. 本サブコマンド使用時の注意事項

本サブコマンドは mode サブコマンドで static を指定した場合だけ有効です。

スタンバイリンクモードのリンクダウン/非リンクダウン変更はできません。変更する場合、本パラメータを削除後に、再度本サブコマンドの設定が必要です。

非リンクダウンモードでポート数を変更する場合, no-link-down の指定が必要です。

【訂正後】

3. 本サブコマンド使用時の注意事項

本サブコマンドは mode サブコマンドで static を指定した場合だけ有効です。

スタンバイリンクモードのリンクダウン/非リンクダウン変更はできません。変更する場合,本 パラメータを削除後に,再度本サブコマンドの設定が必要です。

非リンクダウンモードでポート数を変更する場合, no-link-down の指定が必要です。

本コマンドを設定することで、リンクダウンしていたポートがスタンバイリンクに選択された場合、当該ポートに対して、集約されたことを示すログを表示することなく、スタンバイリンクによって離脱したことを示すログのみを表示します。

12. DHCPリレー情報 (P227~P239)

(1) relay-interface (relayインタフェース情報)【追加】

「注意事項 (P239)」に追加します。[Ver. 10. 10. K 以降]

【追加】

5. IP 中継で直接接続するネットワークまたはサブネットワークのブロードキャスト(ダイレクトブロードキャスト)DHCP パケットを受信し、かつ中継を許可する設定(コンフィグレーションコマンド" ip <IP Address_own> {mask <Subnet Mask | masklen <Subnet Mask Bit Length> | /<SubnetMask Bit Length>} directbroad_forward")を行っている場合、IP 中継と DHCP リレーエージェントによる転送がそれぞれ行われます。

6. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol. 2 Ver. 10. 10 (AX-10-009-K0) の訂正内容

10. ログ情報 (P329~P341)

(1) logger-smtp(SMTPサーバ情報)【訂正】

「パラメータ (P340)」を訂正します。

【訂正前】

port <port number>

SMTP サーバのポート番号を指定します。省略時は標準値(25) を使用します。

【訂正後】

port <port number>

SMTP サーバのポート番号を 0 または $1 \sim 65535$ の範囲内で指定します。 省略時及び 0 指定時は標準値(25) を使用します。

11. NTP情報 (P343~P349)

(1) ntp (NTP情報)【追加】

「注意事項 (P349)」に追加します。

【追加】

13. clientlimt によるクライアント数の上限指定はできませんので、ntp サーバへのアクセスを制御する場合は、restrict パラメータで条件を指定ください。

「注意事項 (P349)」に追加します。[10.10.R以降]

【追加】

13. 本装置は NTP モード 6 およびモード 7 のパケットに応答しません。

17. コンフィグレーション編集時のエラーメッセージ (P391~P500)

(1) 17.1.8 ルーティングプロトコル【訂正】

「表 17-8 ルーティングプロトコルのエラーメッセージ一覧 (P411)」を訂正します。

【訂正前】

メッセージ	内容
attribute-list: invalid autonomous system	AS 番号の指定範囲が不正です。
value at <value> not in range 1 to 4294967295</value>	1 ~ 4294967295 の範囲で指定してください。
	<value>: 指定 AS 番号</value>
:	:
attribute-list: invalid index number in	拡張コミュニティ内の ID 番号の指定範囲が不正
extended community number value at	です。
<value> not in range 0 to { 65535 </value>	$0 \sim 65535$, または $0 \sim 4294967295$ の範囲で
4294967295 }	指定してください。
	<value>: 指定 ID 番号</value>

【訂正後】

メッセージ	内容
attribute-list: invalid autonomous system	AS 番号の指定範囲が不正です。
value at <value> not in range 1 to $\{65535\mid$</value>	$1 \sim 65535$ または $1 \sim 4294967295$ の範囲で
4294967295 }	指定してください。
	<value>: 指定 AS 番号</value>
:	:
attribute-list: invalid index number in	拡張コミュニティ内の ID 番号の指定範囲が不正
extended community value at <value> not in</value>	です。
range 0 to { 65535 4294967295 }	$0 \sim 65535$, または $0 \sim 4294967295$ の範囲で
	指定してください。
	<value>: 指定 ID 番号</value>

「表 17-8 ルーティングプロトコルのエラーメッセージ一覧 (P448)」を訂正します。

【訂正前】

メッセージ	内容
route-filter: invalid autonomous system value at <value> not in range 1 to 4294967295</value>	AS 番号の指定範囲が不正です。 1 ~ 4294967295 の範囲で指定してください。
	Value>: 指定 AS 番号

【訂正後】

メッセージ	内容
route-filter: invalid autonomous system value at <value> not in range 1 to { 65535 4294967295 }</value>	AS 番号の指定範囲が不正です。 1 ~ 65535 または 1 ~ 4294967295 の範囲で 指定してください。
	Value>: 指定 AS 番号

「表 17-8 ルーティングプロトコルのエラーメッセージ一覧 (P449)」を訂正します。

【訂正前】

メッセージ	内容
route-filter: invalid index number in extended community number value at <value> not in range 0 to { 65535 4294967295 }</value>	拡張コミュニティ内の ID 番号の指定範囲が不正です。
	0 ~ 65535, または 0 ~ 4294967295 の範囲で 指定してください。
	<value>: 指定 ID 番号</value>

【訂正後】

メッセージ	内容
route-filter: invalid index number in	拡張コミュニティ内の ID 番号の指定範囲が不正
extended community value at <value> not in</value>	です。
range 0 to { 65535 4294967295 }	$0\sim65535$, または $0\sim4294967295$ の範囲で
	指定してください。
	<value>: 指定 ID 番号</value>

7. 運用コマンドレファレンス Vol. 1 Ver. 10. 10 (AX-10-010-K0) の訂正内容

2. モード切替 (P7~P15)

(1) configure (configure terminal) 【追加】

「注意事項 (P15)」に追加します。

【追加】

13. IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストプロトコル情報, MPLS 情報の変更を行い, apply コマンドを実行していない場合,本コマンドを入力するとコマンドの実行前に apply コマンドを自動で実行し、変更した IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストルーティングプロトコル情報, MPLS 情報が運用に反映されます。

3. ログインユーザ (P17~P33)

(1) killuser【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P32)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

あり

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

なし

6. ソフトウェア管理 (P55~P75)

(1) synchronize 【追加】

「注意事項 (P75)」に追加します。

【追加】

12. IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストプロトコル情報, MPLS 情報の変更を行い, apply コマンドを実行していない場合,本コマンドを入力するとコマンドの実行前に apply コマンドを自動で実行し、変更した IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストルーティングプロトコル情報, MPLS 情報が運用に反映されます。

7. MC保守 (P77~P85)

(1) copy mc【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P78)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

あり

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

装置運用中に本コマンドを実行すると、一時的にネットワークが不安定になる可能性があります。

(2) format mc【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P80)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

装置運用中に本コマンドを実行すると、一時的にネットワークが不安定になる可能性があります。

8. ファイル操作 (P87~P124)

(1)copy running—config 【追加】

「注意事項 (P92)」に追加します。

【追加】

8. IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストプロトコル情報, MPLS 情報の変更を行い, apply コマンドを実行していない場合,本コマンドを入力するとコマンドの実行前に apply コマンドを自動で実行し、変更した IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストルーティングプロトコル情報, MPLS 情報が運用に反映されます。

(2) copy startup-config 【追加】

「注意事項 (P94)」に追加します。

【追加】

12. IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストプロトコル情報, MPLS 情報の変更を行い, apply コマンドを実行していない場合,本コマンドを入力するとコマンドの実行前に apply コマンドを自動で実行し、変更した IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストルーティングプロトコル情報, MPLS 情報が運用に反映されます。

(3) copy backup-config 【追加】

「注意事項 (P97)」に追加します。

【追加】

14. IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストプロトコル情報, MPLS 情報の変更を行い, apply コマンドを実行していない場合,本コマンドを入力するとコマンドの実行前に apply コマンドを自動で実行し、変更した IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストルーティングプロトコル情報, MPLS 情報が運用に反映されます。

(4) erase startup-config 【追加】

「注意事項 (P101)」に追加します。

【追加】

5. IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストプロトコル情報, MPLS 情報の変更を行い, apply コマンドを実行していない場合,本コマンドを入力するとコマンドの実行前に apply コマンドを自動で実行し、変更した IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストルーティングプロトコル情報, MPLS 情報が運用に反映されます。

(5) cd【追加】

「ユーザ通信への影響 (P104)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(6) pwd【追加】

「ユーザ通信への影響 (P105)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(7) /s 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P106)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(8) cat 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P110)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(9) cp 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P111)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

(10) mkdir 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P112)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(11) mv 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P113)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(12) rm 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P114)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(13) rmdir 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P115)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(14) chmod 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P122)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

9. ユーティリティ (P125~P133)

(1) diff 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P126)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(2) grep (egrep, fgrep) 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P127)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(3) more 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P128)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(4) less 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P129)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(5) vi 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P130)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

(6) sort 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P131)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(7) tail 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P132)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(8) hexdump【追加】

「ユーザ通信への影響 (P133)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

10. 装置管理 (P135~P185)

(1) show system 【訂正】

「表 10-3 show system コマンド表示内容 (2/4) (P142~P143)」を訂正します。

【訂正内容】

表示項目	表示内容	表示詳細情報
BCU	BCU 情報	_
	BCU の動作状態	Active: 運用系として稼働中
		Standby: 待機系として稼働中【AX7800R】
		Fault:障害中 *10 ◆ 訂正
		Closed:保守中
		Disconnect: 未実装
		Configuration Discord:コンフィグレーション不一致に
		よって運用系と非同期中
		Software Version Discord: S/W バージョン不一致によ
		って運用系と非同期中
		License Key Discord: ライセンスキー不一致によって運
		用系と非同期中
		Booting:初期化中
:	:	:

注※5 SYSTEM OPERATION PANEL 情報は、以下の基準で情報を表示します。

- ・ 障害が発生していない場合は、'No error'を表示します。
- ・ 二重障害が発生中の場合は、最もイベントレベルの高い障害情報を表示します。
- 障害が発生していない状態で、「SYSTEM OPERATION PANEL」操作中の場合は、'No error' を表示します。

追加

「注※10 standby 系 BCU の起動直後は show system 上 status が一時的に「Fault」となります。 Standby 系 BCU の status が「Fault」のまま移行しない場合, ハードウェア診断により異常を検知したことを示します。

「表 10-4 show system コマンド表示内容 (3/4) (P143)」を訂正します。

【訂正前】

表示項目	表示内容	表示詳細情報
:	:	:
Boot	CPの起動時刻	CPの起動時刻
	CP の起動要因	Power ON:電源スイッチ ON による起動
		Operation Reboot : リブートコマンドまたは BCU
		ALTERNATE スイッチ押下による再起動
		Fatal:障害による再起動
	CP リスタート回数	障害による CP リスタート回数
:	:	:

表示項目	表示内容	表示詳細情報
:	:	:
Boot	CP の起動時刻	CP の起動時刻
	CP の起動要因	Power ON:電源スイッチ ON による起動
		Operation Reboot:ユーザ操作による再起動
		Fatal:障害による再起動
	CP リスタート回数	障害による CP リスタート回数
:	:	:

(2) reload【訂正】

「[機能] (P151)」を訂正します。

【訂正前】

装置または CP を再起動し、通常動作時はログ、ダンプを採取します。 二重化構成で運用系装置の装置再起動を指定した場合には系切替します。

【訂正後】

装置または CP を再起動します。

二重化構成で運用系装置の装置再起動を指定した場合には系切替します。 パラメータ指定により、ログ、ダンプを採取します。

「[パラメータ] (P151~P152)」を訂正します。

【訂正前】

[パラメータ]

secondary

本パラメータを指定した場合、必ず MC スロット 1 からソフトウェアを起動します。本パラメータは指定したときだけ有効であり、常時起動する MC スロットを設定したい場合は set mode コマンドを使用してください。

また、system パラメータを指定しなかった場合、本パラメータは運用系、待機系共に有効となります。

no-dump-image

ログ、ダンプを採取しません。

dump-image

- <形式 1>の場合 ログ, RM ダンプを採取します。
- <形式 2>の場合 ログ、CP コマンドダンプを採取します。

-f

確認メッセージなしでコマンドを実行します。ログ,ダンプ採取の有無を指定していない場合は,ログ,ダンプを採取します。

stop

再起動せずに停止します。

<System>

二重化構成時の再起動の対象となる系を指定します。

standby

待機系を指定します。

active

運用系を指定します。装置再起動の場合、系切替を行い、CP 再起動の場合は系切替を行いません。

なし

- <形式1>の場合 装置全体の再起動を行います。
- <形式 2>の場合 装置全体の CP の再起動を行います。

注 dump-image, no-dump-image の両パラメータを選択しない場合, dump-image を選択した場合と同等の動作となります。

【訂正後】

[パラメータ]

secondary

本パラメータを指定した場合、必ず MC スロット 1 からソフトウェアを起動します。本パラメータは指定したときだけ有効であり、常時起動する MC スロットを設定したい場合は set mode コマンドを使用してください。

また、system パラメータを指定しなかった場合、本パラメータは運用系、待機系共に有効となります。

no-dump-image

ログ、ダンプを採取しません。

注 本パラメータを省略した場合,ログ,ダンプを採取します。

dump-image

<形式1>の場合

ログ, RM ダンプを採取します。

<形式2>の場合

ログ、CP コマンドダンプを採取します。

注 no-dump-image, dump-image の両パラメータを省略した場合, 本動作と同等の動作となります。

-f

確認メッセージなしでコマンドを実行します。ログ,ダンプ採取の有無を指定していない場合は,ログ,ダンプを採取します。

stop

再起動せずに停止します。

<System>

二重化構成時の再起動の対象となる系を指定します。

standby

待機系を指定します。

active

運用系を指定します。装置再起動の場合、系切替を行い、CP 再起動の場合は系切替を行いません。

なし

- <形式1>の場合 装置全体の再起動を行います。
- <形式 2>の場合 装置全体の CP の再起動を行います。

「[実行例] (P152~P154)」を訂正します。

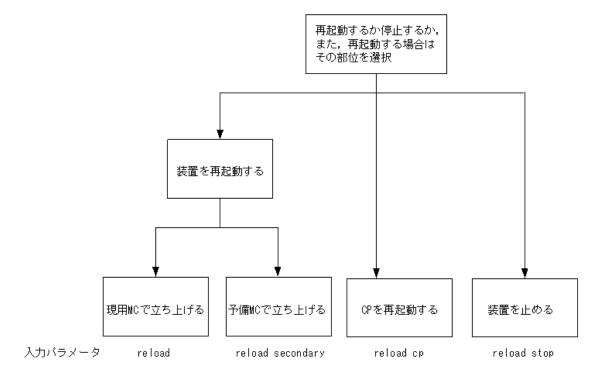
【訂正前】

[実行例]

実行例として、「運用系 CP の再起動」を行い、ログ、ダンプ取得については確認メッセージに従って行うときのコマンドパラメータ選択について説明します。

Step1

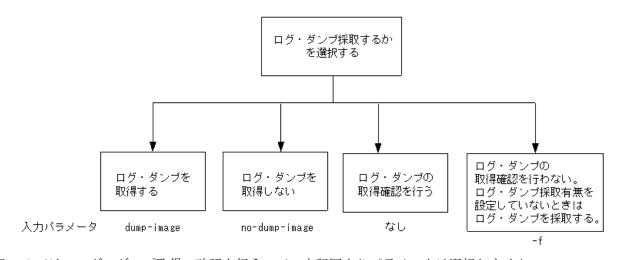
装置を再起動するか、停止するか、または CP を再起動するかを選択します。装置を再起動する場合はさらに、現用 MC を使って再立ち上げするか、予備 MC を使って再立ち上げするかを選択します。



Step1では、CPを再起動させるので、上記図より「reload cp」を選択します。

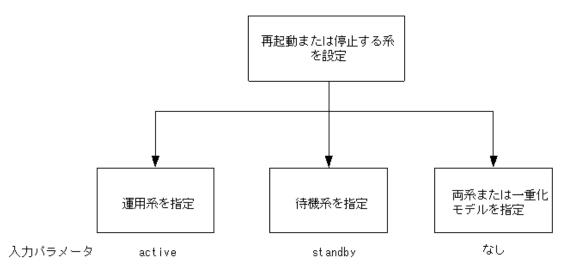
Step2

次にログ、ダンプ採取するかどうかを選択します。



Step2では、ログ、ダンプ取得の確認を行うので、上記図よりパラメータは選択しません。

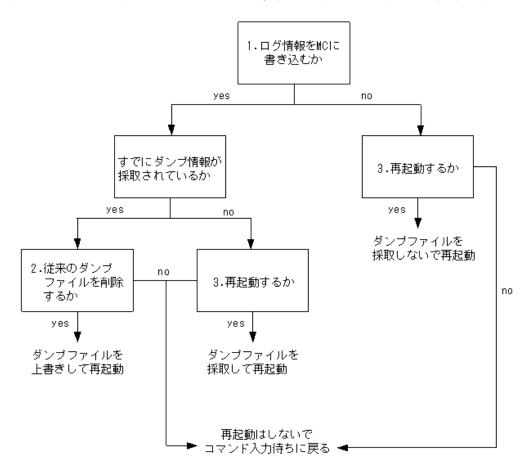
Step3



Step3 では,運用系を再起動させるので,「active」を選択します。Step1 から Step3 で選択したパラメータを組み合わせると「reload cp active」となります。このコマンドを入力すると,以下のようなログ,ダンプ取得確認メッセージが出力されます。

- 1. Writing log information to MC and restart (y/n)
- 2. act:old dump file(cp00.cmd 01/01 00:00) delete OK? (y/n):
- 3. Restart OK? (y/n):

上記のメッセージが出力されるタイミングは、次に示すフローチャートの番号に対応しています。



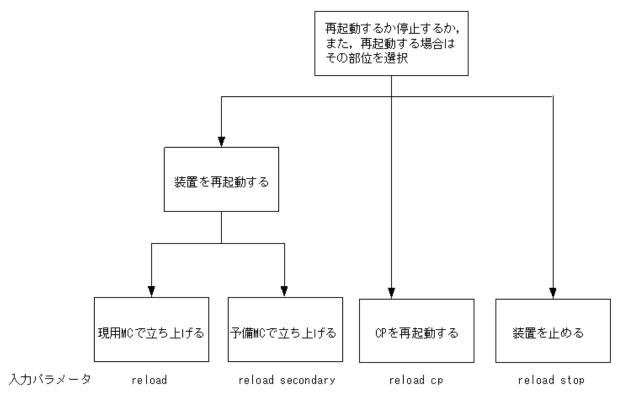
【訂正後】

[実行例]

実行例として、「運用系 CP の再起動」を行い、確認メッセージを表示し、ログ、ダンプを採取する場合のコマンドパラメータ選択について説明します。

Step1

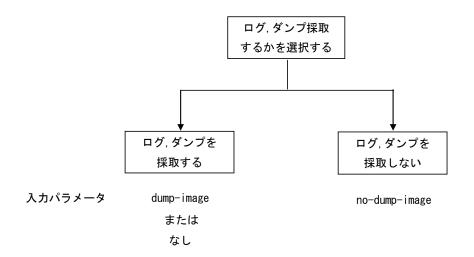
装置を再起動するか、停止するか、または CP を再起動するかを選択します。装置を再起動する場合はさらに、現用 MC を使って再立ち上げするか、予備 MC を使って再立ち上げするかを選択します。



本実行例では、CPの再起動を行うため、上記図より「reload cp」を選択します。

Step2

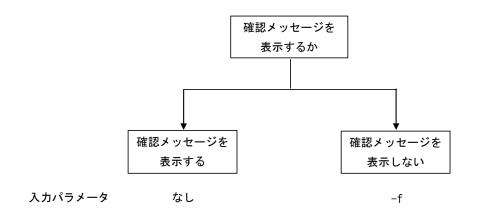
次にログ、ダンプ採取するかどうかを選択します。



本実行例では、ログ、ダンプの採取を行うので、上記図より入力パラメータなしを選択します。

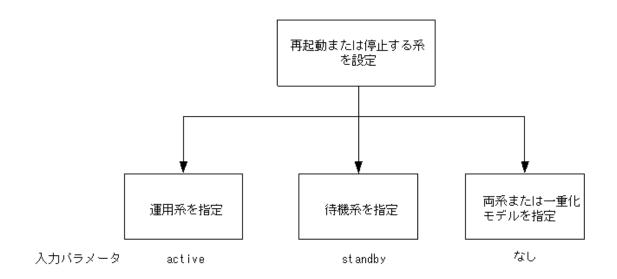
Step3

次に確認メッセージ表示を行うかどうかを選択します。



本実行例では、確認メッセージ表示を行うので、上記図より入力パラメータなしを選択します。

Step4



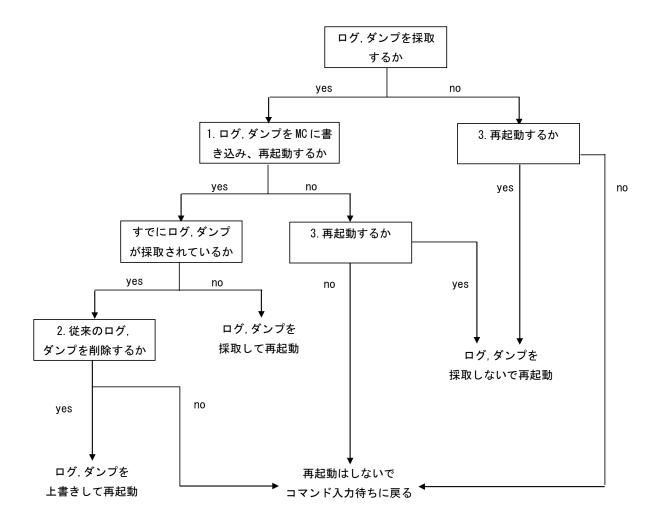
本実行例では、運用系を再起動させるので、「active」を選択します。

Step1 から Step4 で選択したパラメータを組み合わせると「reload cp active」となります。 このコマンドを入力すると、以下の確認メッセージが出力されます。

- 1. Writing log information to MC and restart (y/n)
- 2. act:old dump file(cp00.cmd 01/01 00:00) delete OK? (y/n):
- 3. Restart OK? (y/n):

上記の確認メッセージが出力されるタイミングは、次に示すフローチャートの番号に対応しています。

(-fパラメータを入力した場合は上記 $1\sim3$ の確認メッセージは出力されず、yes が選択された場合と同等の動作となります。)



11. PRU/NIF管理 (P187~P209)

(1) close nif【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P206)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

あり

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

当該 NIF を使用した通信ができなくなります。

(2) free nif【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P208)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

あり

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

当該 NIF を使用した通信を再開します。

15. ダンプ情報 (P273~P289)

(1) dump cp【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P275)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

再起動のパラメータを指定してダンプを採取する間、当該 CP を介した通信はできません。

(2) dump pru【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P278)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

再起動のパラメータを指定してダンプを採取する間、当該 PRU を介した通信はできません。

(3) dump nif【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P281)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

再起動のパラメータを指定してダンプを採取する間、当該 NIF を介した通信はできません。

16. 時刻管理 (P291~P299)

(1) set calendar 【訂正】

「パラメータ (P293)」を訂正します。

【訂正前】

[パラメータ]

уу

年の下 2 桁を指定します。指定できる値は $70\sim99$ (1900 年代)および $00\sim38$ (2000 年代)です。 (例.2000 年ならば 00)

<省略>

【訂正後】

[パラメータ]

уу

年の下 2 桁を指定します。指定できる値は 70~99(1900 年代)および 00~37(2000 年代)です。(例.2000 年ならば 00)

<省略>

「応答メッセージ (P294)」を訂正します。

【訂正内容】

[応答メッセージ]

表 16-1 set calendar コマンドのメッセージ一覧

メッセージ	内容
Can't execute this command in standby BCU.	待機系 BCU ではこのコマンドは実行できません。
illegal time format.	時刻入力形式が違います。
illegal time.	日付・時刻の値が範囲外です。
	範囲内の値を設定してください。
invalid day of month supplied.	日の値が範囲外です。
	範囲内の値を設定してください。
invalid hour supplied.	時の値が範囲外です。
	範囲内の値を設定してください。
invalid minute supplied.	分の値が範囲外です。
	範囲内の値を設定してください。
invalid month supplied.	月の値が範囲外です。
	範囲内の値を設定してください。
invalid second supplied.	秒の値が範囲外です。
	範囲内の値を設定してください。

追加人

(2) rdate 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P295)」を訂正します。

【訂正前】

24 時間以上の大幅な時刻変更をした場合,通信が一時的に中断されることがあります。

【訂正後】

IPv4 ルーティング機能および IPv6 ルーティング機能を使用している場合,通信に影響することがあります。[注意事項]を参照してください。

17. イーサネット (P301~P372)

(1) close(イーサネット)【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P357)を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

あり

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

当該イーサネットインタフェースを使用した通信ができなくなります。

(2) free(イーサネット)【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P359)を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

あり

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

当該イーサネットインタフェースを使用した通信を再開します。

(3) test interfaces(イーサネット)【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P363)を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

あり

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

当該イーサネットインタフェースを使用した通信ができなくなります。

(4) no test interfaces(イーサネット)【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P371)を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

あり

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

当該イーサネットインタフェースを使用した通信を再開します。

19. POS (P397~P442)

(1) close (POS) 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P422)を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

あり

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

当該 POS インタフェースを使用した通信ができなくなります。

(2) free (POS) 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P424)を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

あり

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

当該 POS インタフェースを使用した通信を再開します。

(3) test interfaces (POS) 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P438)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

当該 POS インタフェースを使用した通信ができなくなります。

(4) no test interfaces (POS) 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P442)を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

当該 POS インタフェースを使用した通信を再開します。

8. 運用コマンドレファレンス Vol.2 Ver.10.10 (AX-10-011-K0) の訂正内容

1. IPv4 ネットワーク情報 (P1~P97)

(1) show ip-dual interface(IPv4) 【訂正】

「図 1-4 IP アドレス詳細情報表示 (P8)」を訂正します。

【訂正前】

図 1-4 IP アドレス詳細情報表示

<省略>

TUN6to4: flags=80b1<UP,POINTtoPOINT,NOTRAILERS,NOARP,MULTICAST>

mtu 1280

inet6 2002:6464:6464:1::1/64

Time-since-last-status-change: Over 100 days

Last down at: 6/7 17:25:00

【訂正後】

図 1-4 IP アドレス詳細情報表示

<省略>

TUN6 to 4: flags = c0e3 < UP, BROAD CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > 100 CM and CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > 100 CM and CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > 100 CM and CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > 100 CM and CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > 100 CM and CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > 100 CM and CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > 100 CM and CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > 100 CM and CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > 100 CM and CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > 100 CM and CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > 100 CM and CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > 100 CM and CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > 100 CM

mtu 1280

inet6 2002:6464:6464:1::1/64 (100.100.100.100) Time-since-last-status-change: Over 100 days

Last down at: 6/7 17:25:00

(2) ping 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P20)」を変更します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

preload パラメータを使用した場合、CPU の使用率や送信帯域を大幅に消費しますので、通信に影響を与える恐れがあります。

(3) traceroute 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P24)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(4) show netstat (netstat) (IPv4) 【訂正】

「注意事項 (P41)」を訂正します。

【訂正前】

[注意事項]

- ・パラメータ wait を付けて実行した場合、本コマンドの終了は「Ctrl + C」で行います。
- ・show netstat(netstat) コマンドを実行中にインタフェースの状態が変更されると、コマンドをエラー終了して障害退避情報ファイルを出力する場合があります。この場合は、再度 show netstat(netstat) コマンドを実行してください。

【訂正後】

[注意事項]

- ・パラメータ wait を付けて実行した場合,本コマンドの終了は [Ctrl + C] で行います。
- ・本コマンドを実行時に、コマンドをエラー終了して障害退避情報ファイルを出力する場合があります。この場合は、再度本コマンドを実行してください。

(5) clear tcp(IPv4)【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P43)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

切断した TCP コネクションの通信が停止します。

(6) show filter-flow(IPv4) 【訂正】

「パラメータ〈List No.〉(P46)」を訂正します。

【訂正前】

<List No.>

コンフィグレーションフローフィルタ情報(flow filter)で設定したフィルタリスト番号。 値の範囲は $1\sim2000$, または $1000001\sim5000000$ を指定します。

本番号を省略した場合,フィルタリスト番号 1~20000,40001~60000,1000001~5000000,および 6000001~10000000 の全フィルタリストを表示対象にします。

【訂正後】

<List No.>

コンフィグレーションフローフィルタ情報(flow filter)で設定したフィルタリスト番号。値の範囲は $1\sim20000$, または $1000001\sim5000000$ を指定します。

本番号を省略した場合,フィルタリスト番号 1~20000,40001~60000,1000001~5000000,および 6000001~10000000 の全フィルタリストを表示対象にします。

(7) clear filter-flow(IPv4)【訂正】

「パラメータ〈List No.〉(P52)」を訂正します。

【訂正前】

<List No.>

コンフィグレーションフローフィルタ情報(flow filter)で設定したフィルタリスト番号。 値の範囲は $1\sim2000$, または $1000001\sim5000000$ を指定します。

本番号を省略した場合、フィルタリスト番号 $1\sim20000$ 、 $40001\sim60000$ 、 $1000001\sim5000000$ 、および $6000001\sim10000000$ の全フィルタリストをクリア対象にします。

【訂正後】

<List No.>

コンフィグレーションフローフィルタ情報(flow filter)で設定したフィルタリスト番号。 値の範囲は $1\sim20000$, または $1000001\sim5000000$ を指定します。

本番号を省略した場合,フィルタリスト番号 $1\sim20000$, $40001\sim60000$, $1000001\sim5000000$,および $6000001\sim10000000$ の全フィルタリストをクリア対象にします。

(8) clear ip dhcp binding 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P80)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

DynamicDNS 連携を設定している場合、同時に DynamicDNS サーバから対応するエントリレコードが削除(DNS 更新)されるため、名前解決ができなくなります。

(9) restart dhcp【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P89)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

一時的に DHCP パケットの送受信が停止し、IP アドレスの配布や更新・解放などができなくなります。

2. IPv6 ネットワーク情報 (P99~P195)

(1) show ip-dual interface(IPv6) 【訂正】

「図 2-4 IP アドレス詳細情報表示 (P106)」を訂正します。

【訂正前】

図 2-4 IP アドレス詳細情報表示

<省略>

TUN6 to 4: flags = 80 b1 < UP, POINT to POINT, NOTRAILERS, NOARP, MULTICAST > 10 b1 c1 b

mtu 1280

inet6 2002:6464:6464:1::1/64

Time-since-last-status-change: Over 100 days

Last down at: 6/7 17:25:00

【訂正後】

図 2-4 IP アドレス詳細情報表示

<省略>

TUN6 to 4: flags = c0e3 < UP, BROAD CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOTRAILERS, RUNNING, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROAD CAST, NOARP, LINK 2, MULTICAST > c0e3 < UP, BROA

mtu 1280

inet6 2002:6464:6464:1::1/64 (100.100.100.100) Time-since-last-status-change: Over 100 days

Time since last status change. Over 1

Last down at: 6/7 17:25:00

(2) show ipv6 interface【訂正】

「図 2-8 IP アドレス詳細情報表示 (P112)」を訂正します。

【訂正前】

図 2-8 IP アドレス詳細情報表示

<省略>

TUN6to4: flags=80b1<UP,POINTtoPOINT,NOTRAILERS,NOARP,MULTICAST>

mtu 1280

inet6 2002:6464:6464:1::1/64

Time-since-last-status-change: Over 100 days

Last down at: 6/7 17:25:00

【訂正後】

図 2-8 IP アドレス詳細情報表示

<省略>

mtu 1280

inet6 2002:6464:6464:1::1/64 (100.100.100.100)

Time-since-last-status-change: Over 100 days

Last down at: 6/7 17:25:00

(3) ping ipv6【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P122)」を変更します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

preload パラメータを使用した場合、CPU の使用率や送信帯域を大幅に消費しますので、通信に影響を与える恐れがあります。

(4) traceroute ipv6 【訂正】

「numeric パラメータ (P124)」を訂正します。

【訂正前】

numeric

ゲートウェイのアドレスをホスト名と IPv6 アドレスではなく, IPv6 アドレスだけで表示します。

【訂正後】

numeric

ゲートウェイのアドレスをホスト名ではなく、IPv6 アドレスだけで表示します。

(5) show netstat (netstat) (IPv6) 【訂正】

「注意事項 (P141)」を訂正します。

【訂正前】

[注意事項]

- ・パラメータ wait を付けて実行した場合、本コマンドの終了は[Ctrl + C]で行います。
- ・show netstat(netstat) コマンドを実行中にインタフェースの状態が変更されると、コマンドをエラー終了して障害退避情報ファイルを出力する場合があります。この場合は、再度 show netstat(netstat) コマンドを実行してください。

【訂正後】

「注意事項]

- ・パラメータ wait を付けて実行した場合、本コマンドの終了は[Ctrl + C]で行います。
- ・本コマンドを実行時に、コマンドをエラー終了して障害退避情報ファイルを出力する場合があります。この場合は、再度本コマンドを実行してください。

(6) clear tcp(IPv6)【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P143)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

切断した TCP コネクションの通信が停止します。

(7) clear ipv6 dhcp binding 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P175)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

配布プレフィックスの経路自動設定機能を設定している場合,同時に経路情報から対応するエントリが削除されるため,通信ができなくなります。

(8) restart ipv6-dhcp server【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P188)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

一時的に DHCPv6 パケットの送受信が停止し、プレフィックスの配布や更新・解放などができなくなります。

3. IPv4ユニキャストルーティングプロトコル情報 (P197~P369)

(1)show ip static【追加】

「ユーザ通信への影響 (P315)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

4. [Pv4 マルチキャストルーティングプロトコル情報【OP-MLT】(P371~P417)

(1) clear ip mroute【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P391)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

あり

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

該当するマルチキャスト経路情報およびマルチキャスト中継エントリを消去し、マルチキャスト通信を停止します。

その後,マルチキャスト経路情報およびマルチキャスト中継エントリを再学習することによりマル チキャスト通信を再開します。

6. IPv6 ユニキャストルーティングプロトコル情報(P441~P588)

(1) show ipv6 static 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P556)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

9. QoS情報 (P695~P755)

(1) show qos ip-flow【訂正】

「パラメータ〈List No.〉(P697)」を訂正します。

【訂正前】

<List No.>

コンフィグレーションフローQoS 情報(flow gos)で設定した QoS リスト番号。

値の範囲は $1\sim2000$, $40001\sim60000$, $1000001\sim5000000$, または $6000001\sim10000000$ を指定します。

本番号を省略した場合、QoS リスト番号 $1\sim20000$ 、 $40001\sim60000$ 、 $1000001\sim5000000$ 、および $6000001\sim10000000$ の全 QoS リストを表示対象にします。

【訂正後】

<List No.>

コンフィグレーションフローQoS 情報(flow qos)で設定した QoS リスト番号。

値の範囲は $1\sim20000$, $40001\sim60000$, $1000001\sim5000000$, または $6000001\sim10000000$ を指定します。

本番号を省略した場合, QoS リスト番号 $1\sim20000$, $40001\sim60000$, $1000001\sim5000000$, および $6000001\sim10000000$ の全 QoS リストを表示対象にします。

(2) clear qos ip-flow【訂正】

「パラメータ〈List No.〉(P711)」を訂正します。

【訂正前】

<List No.>

コンフィグレーションフローQoS 情報(flow qos)で設定した QoS リスト番号。

値の範囲は $1\sim2000$, $40001\sim60000$, $1000001\sim5000000$, または $6000001\sim10000000$ を指定します。

本番号を省略した場合, QoS リスト番号 $1\sim20000$, $40001\sim60000$, $1000001\sim5000000$, および $6000001\sim10000000$ の全 QoS リストをクリア対象にします。

【訂正後】

<List No.>

コンフィグレーションフローQoS 情報(flow qos)で設定した QoS リスト番号。

値の範囲は $1\sim20000$, $40001\sim60000$, $1000001\sim5000000$, または $6000001\sim10000000$ を指定します。

本番号を省略した場合, QoS リスト番号 $1\sim20000$, $40001\sim60000$, $1000001\sim5000000$, および $6000001\sim10000000$ の全 QoS リストをクリア対象にします。

10. 二重化管理 (P757~P776)

(1) clear mode 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P773)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

CSW モードが「single mode」に反映されるまでの間、一時的に通信が停止する場合があります。 【AX7800R】

11. VRRP情報 (P777~P795)

(1) swap vrrp(IPv4)【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P784)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

VRRP の状態遷移により、一時的に通信が中断することがあります。

(2) swap vrrp(IPv6)【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P792)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

VRRP の状態遷移により、一時的に通信が中断することがあります。

9. メッセージ・ログレファレンス Ver. 10. 10 (AX-10-012-KO) の訂正内容

3. 装置関連の障害およびイベント情報 (P119~P281)

(1) 3. 4.1 イベント発生部位=RM【訂正】

「表 3-6 イベント発生部位=RM の装置関連の障害およびイベント情報 (P147~P178)」 を訂正します。

【訂正前】

項	イベント	イベント	メッセージ	付加情報	メッセージテキスト		
番	レベル	発生部位	識別子	上位 4 桁			
				内容	\$		
128	E7	RM	01200101	1001	RM software process stopped.		
	CP を制御	lする RM のプ	ロセスが停止	しました。			
	[対応]						
	1. CP が再起動したことを、show system コマンドを使用して確認してください。						
	2. ダンプとログと障害待避情報(/primaryMC/var/core 下のすべてのファイル)およびコンフィ						
	グレー	ションを保守員	員へ送付してく	ください。ダ	ンプおよび障害待避情報の収集方法について		
	は, 「	運用ガイド, 9	0.2 保守情報	のファイル朝	伝送」を参照してください。		
	3. この現象が頻発する場合は装置を再起動してください。						
	4. 保守員は上記ダンプとログおよび障害待避情報を支援部署へ送付してください。						
157	R7	RM	01200101	1001	RM software process restarted.		
	CP を制御する RM のプロセスが再起動しました。						
	このメッセージは CP を制御する RM のプロセスが自動的に再起動した場合に出力されます。						
	[対応]						
	なし。						

項	イベント	イベント	メッセージ	付加情報	メッセージテキスト		
番	レベル	発生部位	識別子	上位 4 桁			
				内容	·		
128	E7	RM	01200101	1001	RM software process stopped.		
	装置を制御	卸する RM 内の	プログラムが	停止しました	た。		
	[対応]						
	1. ダンプ	とログと障害得	b避情報(/prin	aryMC/var/	core 下のすべてのファイル)およびコンフィ		
	グレーションを保守員へ送付してください。ダンプおよび障害待避情報の収集方法について						
	は、「運用ガイド、9.2 保守情報のファイル転送」を参照してください。						
	2. この現	象が頻発する場	場合は装置を再	F起動してく	ださい。		
	3. 保守員	は上記ダンプと	ログおよび障	管害待避情報	を支援部署へ送付してください。		
157	R7	RM	01200101	1001	RM software process restarted.		
	装置を制御	卸する RM 内の	プログラムが	再起動しま	した。		
	このメッセージは装置を制御する RM 内のプログラムが自動的に再起動した場合に出力されま						
	す。						
	[対応]						
	なし。						

(2) 3. 4. 2 イベント発生部位=CP【訂正】【削除】

「表 3-7 イベント発生部位=CP の装置関連の障害およびイベント情報 (P178~P184)」 を訂正します。

【訂正前】

項 番	イベント レベル	イベント 発生部位	メッセージ 識別子	付加情報 上位 4 桁	メッセージテキスト	
	内容					
26	E8	CP	01500012	1132	CP restarted due to its software failure	
			01500016		detected.	
			01500200			

初期化中に CP ソフトウェア障害(ソフトウェア書き込みエラー)が発生しました。 CP を復旧します。

[対応]

- 1. ダンプおよびログ情報を保守員に渡してください。ダンプ情報の収集方法については、「運用ガイド 9.2 保守情報のファイル転送」を参照してください。
- 2. 保守員は上記ダンプおよびログ情報を支援部署に送付してください。

【訂正後】

項 番	イベント レベル	イベント 発生部位	メッセージ 識別子	付加情報 上位 4 桁	メッセージテキスト		
	内容						
26	E8	CP	01500012	1132	CP restarted due to its software failure		
			01500016		detected.		
			01500017				
			01500200				

初期化中に CP ソフトウェア障害(ソフトウェア書き込みエラー)が発生しました。 CP を復旧します。

[対応]

- 1. ダンプおよびログ情報を保守員に渡してください。ダンプ情報の収集方法については、「運用ガイド 9.2 保守情報のファイル転送」を参照してください。
- 2. 保守員は上記ダンプおよびログ情報を支援部署に送付してください。

「表 3-7 イベント発生部位=CP の装置関連の障害およびイベント情報 (P184)」を削除します。

【削除】

項	イベント	イベント	メッセージ	付加情報	メッセージテキスト
番	レベル	発生部位	識別子	上位 4 桁	
				内容	容
35	R8	CP	01500303	1130	CP event initialized as a result of
					changing this router from active to
					standby.
	このシスラ	テムは運用系か	ら待機系に系	切替したたと	め,過去の CP 管理情報を初期化しました (待
	機系でだり	け表示)。			
	[対応]				
	なし。				

(3) 3. 6. 1 イベント発生部位=MC【訂正】【追加】

「表 3-12 イベント発生部位=MC の装置関連の障害およびイベント情報 (P196~P200)」を訂正します。

【訂正前】

項	イベント	イベント	メッセージ	付加情報	メッセージテキスト		
番	レベル	発生部位	識別子	上位 4 桁			
				内容	容		
15	E8	MC	00000103	2000	CP initialization cancelled due to a		
					failure in loading CP software program.		
	CP ソフトウェアファイルの読み込みに失敗したため、CP の初期化を中止しました。						
	[対応]						
	MC を交換	奥してください	0				

項	イベント	イベント	メッセージ	付加情報	メッセージテキスト		
番	レベル	発生部位	識別子	上位 4 桁			
				内容	容		
15	E8	MC	00000103	2000	CP initialization cancelled due to a		
			00000104		failure in loading CP software program.		
			00000105				
			0000010b				
			0000010c				
			0000010d				
	CP ソフトウェアファイルの読み込みに失敗したため、CP の初期化を中止しました。						
	[対応]						
	MC を交換	逸してください	0				

「表 3-12 イベント発生部位=MC の装置関連の障害およびイベント情報 (P196~P200)」に追加します。[Ver. 10. 10. K 以降]

【追加】

項	イベン	イベント	メッセー	付加情報	メッセージテキスト		
番	+	発生部位	ジ	上位 4 桁			
	レベル		識別子				
				内容	S		
29	E5	MC	0000011f	2000	Access error detected on the		
			00000124		CompactFlash card <slot>.</slot>		
	MCへのフ	アクセスエラー	を検出しまし	た。			
	<slot $>$: M	IC 実装位置(Sl	otO または S	lot1)			
	[対応]						
	MC 故障∅	り恐れがあるた	め, 当該MC	を交換して	ください。		
	copy mc =	コマンド, form	at mc コマン	ド等は実行し	しないでください。		
30	R5	MC	0000011f	2000	The CompactFlash card which has		
			00000124		detected access error was recovered from		
	<slot>.</slot>						
	アクセスエラーを検出した MC が回復しました。						
	<slot>: MC 実装位置(Slot0 または Slot1)</slot>						
	[対応]						
	なし。						

(4) 3. 7.1 イベント発生部位=BCU【訂正】【追加】

「表 3-15 イベント発生部位=BCU の装置関連の障害およびイベント情報」 (P218~ P219)」を訂正します。

【訂正前】

項 番	イベント レベル	イベント 発生部位	メッセージ 識別子	付加情報 上位 4 桁	メッセージテキスト	
	内容					
43	E8	BCU	01500302	2313	CP stopped because of its existing hardware failure.	

BCU ハードウェア障害からの復旧に失敗したため、CP を停止しました。 [対応]

- 1. ダンプ,ログ情報を保守員に渡してください。ダンプ,ログ情報の収集方法については、「運用ガイド 9.2 保守情報のファイル転送」を参照してください。
- 2. 保守員は上記ログ情報を支援部署に送付してください。
- 3. 保守員は BCU ボードを交換してください。

45	E8	BCU	01500331	2313	Recovery due to the failure was
					restrained.

該当ボードは障害による復旧を抑止しています。

[対応]

show logging コマンド, または show logging コマンドで standby パラメータを指定してログを確認してください。障害が発生している場合はそのメッセージに対応した処置をしてください。

【訂正後】

項 番	イベント レベル	イベント 発生部位	メッセージ 識別子	付加情報 上位 4 桁	メッセージテキスト			
	内容							
43	E8	BCU	01500302	2313	CP restarted, but not recovered from hardware failure.			

BCU ハードウェア障害からの復旧に失敗したため、CP を停止しました。

- 1. ダンプ,ログ情報を保守員に渡してください。ダンプ,ログ情報の収集方法については、「運用ガイド 9.2 保守情報のファイル転送」を参照してください。
- 2. 保守員は上記ログ情報を支援部署に送付してください。
- 3. 保守員は BCU ボードを交換してください。

	11 4 / 1			0	
45	E8	BCU	01500313	2313	Recovery due to the failure was
					restrained.

該当ボードは障害による復旧を抑止しています。

[対応]

show logging コマンド, または show logging コマンドで standby パラメータを指定してログを確認してください。障害が発生している場合はそのメッセージに対応した処置をしてください。

「表 3-15 イベント発生部位=BCU の装置関連の障害およびイベント情報 (P211~P222)」に追加します。[Ver. 10. 10. K 以降]

【追加】

項	イベント	イベント	メッセージ	付加情報	メッセージテキスト					
番	レベル	発生部位	識別子	上位 4 桁						
73	E8	BCU	00000302	2301	BCU hardware failure detected.					
	BCU ハー	BCU ハードウェアの障害を検出しました。								
	[対応]									
	1. ログ情	報を保守員に渡	ましてください	、ログ情報の	つ収集方法については,「運用ガイド 9.2 保					
	守情報	のファイル転送	送」を参照して	てください。						
	2. 保守員	は上記ログ情報	みを支援部署 に	送付してく	ださい。					
	3. 保守員	は BCU ボード	を交換してく	ださい。						
74	E9 BCU 0b07340d 2303 This system will be restarted because									
					BCU hardware failure detected.					
	このシスラ	テムは BCU の	ハードウェア	障害を検出し	たため、再起動します。					
	[対応]									
					ブンプ,ログ情報の収集方法については,「運					
					照してください。					
		は上記ログ情報			ださい。					
	3. 保守員	は BCU ボード	`を交換してく	ださい。						
75	E3	BCU	00000004	2301	BCU power failure detected on other					
					system.					
	*	BCU の電源障		-						
		本メッセージは,旧運用系 BCU の電源障害による系切替が発生した場合に新運用系で表示しま								
	す。									
	[対応]			1.16						
	1. 保守員	は旧運用系の I	BCU ボードを	交換してく7	ださい。 					

10. MIBレファレンス Ver. 10. 10 (AX-10-013-KO) の訂正内容

2. 標準MIB(RFC準拠およびIETFドラフトMIB) (P17~P177)

(1) 2.11 snmpグループ(MIB-II)【追加】

「(1) 識別子 (P71)」の前に以下の説明を追加します。

【追加】

本装置では、SNMP エージェント、および SNMP マネージャ相当の機能を持つ snmp の運用コマンド群をサポートしています。本 MIB グループ内の統計情報は、SNMP エージェントだけを統計情報の対象としていて、snmp の運用コマンド群の統計情報は含みません。

本 MIB グループ内の統計情報には、snmp の運用コマンド群で MIB を取得した場合でも、ネットワーク上の SNMP マネージャから MIB を取得したときと同様にメッセージ数や PDU 数がカウントされます。

(2) 2. 23. 2 dot3adAggPortグループ【訂正】

「表 2-100 dot3adAggPort グループの実装仕様 (P156~P160)」を訂正します。

【訂正内容】

表 2-100 dot3adAggPort グループの実装仕様

項	オブジェクト識別子	アク	実装仕様	実装
番		セス		有無
:	:	:	:	:
11	dot3adAggPortPartnerO perSystemID {dot3adAggPortEntry 9}	R/O	[規格]プロトコルパートナーのシステム ID の操作上の値。◆ [実装]規格と同じ。	訂正
:	:	:	:	:
40	dot3adAggPortDebugLa stRxTime {dot3adAggPortDebugE ntry 2}	R/O	[規格]最後に AggregationPort が LACPDUs を受信したときの aTimeSinceSystemReset の値。 [実装]規格と同じ。 ◆	訂正
41	dot3adAggPortDebugMu xState {dot3adAggPortDebugE ntry 3}	R/O	「規格]AggregationPort に対する Mux ステートマシンの状態。 {detached(1), waiting(2), attached(3), collecting(4), distributing(5), collecting_distributing(6)} ◆ 訂正 [実装]規格と同じ。	•
:	:	:	:	:

3. プライベートMIB (P201~P373)

(1) 3. 5. 4 axrFlowQosグループ【訂正】

「表 3-18 axrFlowQos グループの実装仕様 (P235~P264)」を訂正します。

【訂正内容】

表 3-18 axrFlowQos グループの実装仕様

項番	オブジェクト識別子	SYNTAX	アク	実装仕様	実装
			セス		有無
182	axrFlowQosInActMaxRate	INTEGER	R/O	最大帯域制御での監視帯域値(kbit/s)を	•
	{axrFlowQosInActEntry 4}			示します。※3	
				(410,000,000)	
				(最大帯域制御未使用の場合(-1)) ◆	訂正
183	axrFlowQosInActMaxRate	INTEGER	R/O	最大帯域制御でのバーストサイズ	•
	Burst			(Byte)を示します。	
	{axrFlowQosInActEntry 5}			(0131,072)	
				(最大帯域制御未使用または	訂正
				UPC-RED(Max)機能を使用の場合(-1))	
184	axrFlowQosInActMaxUpcR	INTEGER	R/O	UPC-RED(Max)機能使用時の最小バ	•
	edMinBurst			ーストサイズ(Byte)を示します。	
	{axrFlowQosInActEntry 6}			(1268,435,456)	
				(UPC-RED(Max)機能未使用の場合 ◆	訂正
105		INTEGED	D/O	(-1))	
185	axrFlowQosInActMaxUpcR edMaxBurst	INTEGER	R/O	UPC-RED(Max)機能使用時の最大バ	•
	{axrFlowQosInActEntry 7}			ーストサイズ(Byte)を示します。 (1268,435,456)	
	(axiriow qualific tellitity 1)			(1268,455,456) (UPC-RED(Max)機能未使用の場合 ◆	
				(CI C RED(Wax//效能不使用の場合 (-1))	訂正
186	axrFlowQosInActMaxUpcR	INTEGER	R/O	UPC-RED(Max)機能使用時の最大違	
100	edProbability	IIII	10,0	反率(1/10%)を示します。	
	{axrFlowQosInActEntry 8}			(01000)	
				(UPC-RED(Max)機能未使用の場合 ◆	訂正
				(-1))	[F4
187	axrFlowQosInActMinRate	INTEGER	R/O	最低帯域監視での監視帯域値(kbit/s)を	•
	{axrFlowQosInActEntry 9}			示します。※3	
				(410,000,000)	
				(最低帯域監視未使用の場合(-1)) ◆	訂正
188	axrFlowQosInActMinRate	INTEGER	R/O	最低帯域監視でのバーストサイズ	
	Burst			(Byte)を示します。	
	{axrFlowQosInActEntry			(0131,072)	
	10}			(最低帯域制御未使用または	訂正
				UPC-RED(Min)機能を使用の場合(-1))	
189	axrFlowQosInActMinUpcR	INTEGER	R/O	UPC-RED(Min)機能使用時の最小バー	•
	edMinBurst			ストサイズ(Byte)を示します。	
	{axrFlowQosInActEntry			(1268,435,456)	
	11}			(UPC-RED(Min)機能未使用の場合 ◆	訂正
				(-1))	

項番	オブジェクト識別子	SYNTAX	アク	実装仕様	実装
			セス		有無
190	axrFlowQosInActMinUpcR	INTEGER	R/O	UPC-RED(Min)機能使用時の最大バー	•
	edMaxBurst {axrFlowQosInActEntry			ストサイズ(Byte)を示します。	
	12}			(1268,435,456) (UPC-RED(Min)機能未使用の場合 ◆	=+-
	12)			(CTC REDWIII)/%能术使用V/% [(-1))	訂正
191	axrFlowQosInActMinUpcR	INTEGER	R/O	UPC-RED(Min)機能使用時の最大違反	
	edProbability			率(1/10%)を示します。	
	{axrFlowQosInActEntry			(01000)	
	13}			(UPC-RED(Min)機能未使用の場合 ◆	訂正
				(-1))	<u> </u>
100	:	: INTEGER	: D/O	目(広世4286)担(法田14.)。 目(広知仏世42.)。	: •*1
196	axrFlowQosInActMinOver Priority	INTEGER	R/O	最低帯域監視使用時に最低契約帯域に 違反したパケットの出力優先度を示し	•**1
	{axrFlowQosInActEntry			達及したパッテい山力優元及を小し ます。(18)	
	18}			(最低帯域監視未使用の場合(-1)) ◆	訂正
	:	:	:		:
200	axrFlowQosInActMinOver	INTEGER	R/O	最低帯域監視使用時に最低契約帯域に	•
	Discard			違反したパケットのキューイング優先	
	{axrFlowQosInActEntry			度を示します。	
	22}			(14)	
				(最低帯域監視未使用の場合(-1)) ◆	訂正
:	;	:	:		:
205	axrFlowQosInActMinOver	INTEGER	R/O	最低帯域監視使用時に最低契約帯域に	•
	Dscp {axrFlowQosInActEntry			違反したパケットの DSCP 値を示しま	
	27}			す。 (063)	
	,			(0.03) (最低帯域監視未使用の場合(-1)) ◆	訂正
:	:	:	:		:
220	axrFlowQosInActPremMax	INTEGER	R/O	最大帯域制御での重要フローのバース	•
	RateBurst			トサイズ(Byte)を示します。	
	{axrFlowQosInActPremEnt			(0131,072)	
	ry 4}			(最大帯域制御での重要フローのバース	訂正
		1) IMP (2.17)	7.10	トサイズ未使用の場合(-1))	即正
221	axrFlowQosInActPremMin	INTEGER	R/O	最低帯域監視での重要フローのバース	•
	RateBurst {axrFlowQosInActPremEnt			トサイズ(Byte)を示します。	
	ry 5}			(0131,072) (最低帯域監視での重要フローのバース	
	-5			トサイズ未使用の場合(-1))	訂正
:	:	:	:	:	:
227	axrFlowQosOutActMaxRat	INTEGER	R/O	最大帯域制御での監視帯域値(kbit/s)を	•
	e			示します。※3	
	{axrFlowQosOutActEntry			(410,000,000)	
	4}			(最大帯域制御未使用の場合(-1)) ◆	訂正
228	axrFlowQosOutActMaxRat	INTEGER	R/O	最大帯域制御でのバーストサイズ	•
	eBurst			(Byte)を示します。	
	{axrFlowQosOutActEntry 5}			(0131,072)	
	0)			(最大帯域制御未使用または LIDC-PED(Mov)を使用の場合(-1))	訂正
				UPC-RED(Max)を使用の場合(-1))	<u> </u>

229 axrFlowQosOutActMaxUpc RedMinBurst (axrFlowQosOutActMaxUpc RedMinBurst (1,288,435,456) (UPC-REDMax)機能使用時の最大パーストサイズ(Byte)を示します。 (1,284,435,456) (UPC-REDMax)機能未使用の場合 (1)) (UPC-REDMax)機能未使用の場合 (1)) (UPC-REDMax)機能未使用の場合 (1)) (UPC-REDMax)機能使用時の最大パーストサイズ(Byte)を示します。 (1,284,435,456) (UPC-REDMax)機能を使用時の最大パーストサイズ(Byte)を示します。 (1,284,435,456) (UPC-REDMax)機能を使用時の最大達 (2)) (UPC-REDMax)機能を使用時の最大達 (2)) (UPC-REDMax)機能使用時の最大達 (2)) (UPC-REDMax)機能使用時の最大達 (3)) (UPC-REDMax)機能を使用時の最大達 (2)) (UPC-REDMax)機能を使用時の最大達 (2)) (UPC-REDMax)機能使用時の最大達 (3)) (UPC-REDMax)機能使用時の最大活 (4)) (UPC-REDMax)機能使用時の最大活 (1,268,435,456) (UPC-REDMax)機能使用時の最大活 (1,268,435,456) (UPC-REDMax)機能使用時の最大活 (1,268,435,456) (UPC-REDMax)機能使用時の最大活 (1,268,435,456) (UPC-REDMax)機能使用時の最大活 (1,268,435,456) (UPC-REDMax)機能使用時の最大達 (4)) (UPC-REDMax)機能使用時の最大活 (1,268,435,456) (UPC-REDMax)機能使用時の最大活 (1,268,435,456) (UPC-REDMax)機能使用の場合 (1)) (UPC-REDMax)機能使用のように使用のよどを可能的などのよどを使用のよどを使用のよどを使用のよどを使用のよどを使用のよどを使用のよどを使用のよどを使用のよどを使用のよどを	項番	 オブジェクト識別子	SYNTAX	アク	実装仕様	実装
AxrFlowQosOutActEntry Company	ス田	7 7 7 7 7 1 100,771]			大农 压惊	
RedMinBurst (axrFlowQosOutActEntry 6) 230 axrFlowQosOutActMaxUpe RedMaxBurst (axrFlowQosOutActEntry 7) 231 axrFlowQosOutActMaxUpe RedProbability (axrFlowQosOutActEntry 8) 232 axrFlowQosOutActMaxUpe RedProbability (axrFlowQosOutActEntry 8) 233 axrFlowQosOutActMaxUpe RedProbability (axrFlowQosOutActEntry 8) 234 axrFlowQosOutActMaxUpe RedProbability (axrFlowQosOutActMaxUpe RedProbability (axrFlowQosOutActEntry 8) 235 axrFlowQosOutActMaxUpe RedProbability (axrFlowQosOutActMax 1 INTEGER R/O 展代蒂域監視での手を表します。 (0.1000) (DC-REDMax)機能未使用の場合 1 訂正 (1) 236 axrFlowQosOutActMax 1 INTEGER R/O 展代蒂域監視でのゲーストサイズ (Byte)を示します。 ※3 (4.10,000,000) (機能帯域配視本使用の場合(1) 1 訂正 (2.284、435,456) (DPC-REDMin)建能使用にの場合(1) 1 訂正 (1.284、435,456) (DPC-REDMin)建能使用の場合 1 訂正 (1.284、435,456) (DPC-REDMin)建能使用の場合 1 訂正 (1.284、435,456) (DPC-REDMin)建能使用の場合 1 訂正 (1.284、435,456) (DPC-REDMin)建能使用の場合 1 訂正 (1.284、435,456) (DPC-REDMin)機能を使用の場合 1 訂正 (1.286、435,456) (DPC-REDMin)機能を使用の場合 1 INTEGER (1.286、435,456) (DPC-REDMin)機能を使用の場合 1 INTEGER (1.286、435,456) (DPC-REDMin)機能を使用の場合 1 INTEGER (1.286、435,456) (DPC-REDMin)機能を使用の場合 1 INTEGER (1.286、435,456)	229	axrFlowQosOutActMaxUpc	INTEGER		UPC-RED(Max)機能使用時の最小バ	•
(axrFlowQosOutActEntry 6						
AuxFlowQosOutActMaxUpc RedMaxBurst (1) Case RedMaxBurst (1,268,435,456) (UPC-RED(Max)機能使用時の最大点 (1,268,435,456) (UPC-RED(Max)機能使用時の最大達 (1,268,435,456) (UPC-RED(Max)機能使用時の最大達 (1) (UPC-RED(Max)機能・使用の場合 (UPC-RED(Max) (ux + (UPC-RED(Ma						l
axrFlowQosOutActEntry		6}				一訂正
RedMaxBurst (axrFlowQosOutActEntry 7) axrFlowQosOutActMaxUpe RedProbability (axrFlowQosOutActMinRat exrFlowQosOutActMinRat exrFlowQosOutActMinRat eBurst (axrFlowQosOutActEntry 10) 233 axrFlowQosOutActMinRat eBurst (axrFlowQosOutActEntry 11) 234 ExrFlowQosOutActMinRat eBurst (axrFlowQosOutActEntry 10) 1NTEGER R/O Ext#wsikid=rom-x-h+/x (Byte)を示します。 (0.1000 (UPC-RED(Max)機能使用時の最大企 (い1) Ext#wsikid=rom-x-h+/x (Byte)を示します。 (0.110,000,000) (Ext#wsikid=rom-x-h+/x (Byte)を示します。 (0.131,072) (最低帯域に関連を使用の場合(・1)) ExrFlowQosOutActMinUpc RedMinBurst (axrFlowQosOutActMinUpc RedMinBurst (axrFlowQosOutActMinUpc RedMaxBurst (axrFlowQosOutActMinUpc RedMaxBurst (axrFlowQosOutActEntry 112) ExrFlowQosOutActMinUpc RedProbability (axrFlowQosOutActEntry 123 ExrFlowQosOutActEntry 124 ExrFlowQosOutActEntry 125 ExrFlowQosOutActEntry 126 ExrFlowQosOutActEntry 127 ExrFlowQosOutActEntry 128 ExrFlowQosOutActEntry 129 ExrFlowQosOutActEntry 137 ExrFlowQosOutActEntry 138 ExrFlowQosOutActEntry 149 ExrFlowQosOutActEntry 140 ExrFlowQosOutActEntry 141 ExrFlowQosOutActEntry 141 ExrFlowQosOutActEntry 141 ExrFlowQosOutActEntry 142 ExrFlowQosOutActEntry 143 ExrFlowQosOutActEntry 144 ExrFlowQosOutActEntry 145 ExrFlowQosOutActEntry 146 ExrFlowQosOutActEntry 147 ExrFlowQosOutActEntry 148 ExrFlowQosOutActEntry 149 ExrFlowQosOutActEntry 149 ExrFlowQosOutActEntry 149 ExrFlowQosOutActEntry 149 ExrFlowQosOutActEntry 149 ExrFlowQosOutActEntry 149 ExrFlowQosOutActMinOve Priority ExrFlowQosOutAc						
(1268,435,456) (UPC-RED(Max)機能未使用の場合 (1))	230		INTEGER	R/O		
The content of th						
AxrFlowQosOutActMaxUpc RedProbability (axrFlowQosOutActEntry 8)		•				
axrFlowQosOutActEntry RedProbability (axrFlowQosOutActEntry 8						訂止
RedProbability {axrFlowQosOutActEntry 8}	231	axrFlowQosQutActMaxUnc	INTEGER	R/O		
SaxrFlowQosOutActEntry SaxrFlowQosOutActEntry SaxrFlowQosOutActMinRat SaxrFlowQosOutActEntry SaxrFlowQosOutAc	201		INTEGER	10/0		
C(1) 最低帯域監視での監視帯域値(kbit/s)を 金(axrFlowQosOutActEntry g) 最低帯域監視での監視帯域値(kbit/s)を 元します。※3 (4.10,000,000) (最低帯域監視をのパーストサイズ (Byte)を示します。(0.131,072) (最低帯域監視を明または (axrFlowQosOutActEntry 10) INTEGER R/O						l
axrFlowQosOutActMinRat e		8}			(UPC-RED(Max)機能未使用の場合 ◀	訂正
e {						
SaxrFlowQosOutActEntry 9 3 3 3 3 3 3 3 3 3	232	axrFlowQosOutActMinRat	INTEGER	R/O		•
S (最低帯域監視未使用の場合(-1) 訂正 233 axrFlowQosOutActMinRat eBurst {axrFlowQosOutActEntry 10} (B妖器・大きないとます。 (0.131,072) (最低帯域制御未使用または UPC・RED(Min)を使用の場合(-1)) (最低帯域制御未使用または UPC・RED(Min)を使用の場合(-1)) (日本		_			1	
AuxFlowQosOutActMinRat eBurst (axrFlowQosOutActEntry 10)						
eBurst {axrFlowQosOutActEntry 10} 234 axrFlowQosOutActMinUpc RedMinBurst {axrFlowQosOutActEntry 11} 235 axrFlowQosOutActEntry 12} 236 axrFlowQosOutActEntry 12} 236 axrFlowQosOutActEntry 12} 237 axrFlowQosOutActEntry 13} 238 axrFlowQosOutActEntry 13 axrFlowQosOutActEntry 14 axrFlowQosOutActEntry 15 axrFlowQosOutActEntry 16 axrFlowQosOutActEntry 17 axrFlowQosOutActEntry 18 axrFlowQosOutActEntry 18 axrFlowQosOutActMinOve 1 axrFlowQosOutActEntry 1 axrFlowQosOutActEntry 1 axrFlowQosOutActEntry 1 axrFlowQosOutActEntry 1 axrFlowQosOutActEntry 1 axrFlowQosOutActEntry 1 axrFlowQosOutActMinOve 1 axrFlowQosOutActEntry 1 axrFlowQosOutActEntry 1 axrFlowQosOutActEntry 1 axrFlowQosOutActMinOve 1 axrFlowQosOutActMinOve 1 axrFlowQosOutActMinOve 1 axrFlowQosOutActEntry 1 axrFlowQosOu	200		DWDGDD	D/O		1111
{axrFlowQosOutActEntry 10}	233		INTEGER	R/O		•
10 (最低帯域制御未使用または UPC-RED(Min)を使用の場合(-1)) 1) 1) 234 axrFlowQosOutActMinUpc RedMinBurst {axrFlowQosOutActEntry 11} INTEGER R/O UPC-RED(Min)機能使用時の最小パーストサイズ(Byte)を示します。 (1268,435,456) (UPC-RED(Min)機能未使用の場合 (-1)) 1) 1) 1 1 1 1 1 1						
SurFlowQosOutActMinUpc RedMinBurst {axrFlowQosOutActEntry 11}						
Aux FlowQosOutActMinUpc RedMinBurst {axrFlowQosOutActEntry 11}						刮止
RedMinBurst {axrFlowQosOutActEntry 11}	234	axrFlowQosOutActMinUpc	INTEGER	R/O		•
{axrFlowQosOutActEntry 11}						
Summer					_	
AxrFlowQosOutActMinUpc RedMaxBurst {axrFlowQosOutActEntry 12}		11}				訂正
RedMaxBurst {axrFlowQosOutActEntry 12}						
{axrFlowQosOutActEntry 12}	235		INTEGER	R/O		•
12 (UPC-RED(Min)機能未使用の場合 (-1)) 1丁正 236 axrFlowQosOutActMinUpc RedProbability {axrFlowQosOutActEntry 13} INTEGER R/O UPC-RED(Min)機能使用時の最大違反率(1/10%)を示します。(01000) (UPC-RED(Min)機能未使用の場合 (-1)) 1					_	
This diminion is a continuous of the continuous in the continuous in the continuous of the continuous in the continu						
Aux Flow Qos Out Act Min Upc Red Probability {axr Flow Qos Out Act Entry 13}		12)				訂止
RedProbability {axrFlowQosOutActEntry 13}	236	axrFlowQosOutActMinUpc	INTEGER	R/O		
{axrFlowQosOutActEntry 13} (01000) (UPC-RED(Min)機能未使用の場合 (-1)) 237 axrFlowQosOutActAgQueu eOp {axrFlowQosOutActEntry 14} INTEGER	200		IIII	10/0		
Columbia					_ · ·	
AxrFlowQosOutActAgQueu eOp {axrFlowQosOutActEntry 14}		13}			(UPC-RED(Min)機能未使用の場合 ◆	一訂正
eOp {axrFlowQosOutActEntry 14} 番号の指定方法を示します。 {アグリゲートキュー番号指定なしの場合(0),アグリゲートキュー番号を指定 (1),auto 指定(2)} : : : : : : : : : : : : : : : : : : :						
{axrFlowQosOutActEntry 14}	237	•	INTEGER	R/O		•
14						
(1),auto 指定(2) : : : : : : : : : : : : : : : : : :					1	
 : : : : : : : : : : : : : : : : : : :		± ± 1)			<u> </u>	1 11 TT
241 axrFlowQosOutActMinOve rPriority {axrFlowQosOutActEntry 18} INTEGER R/O 最低帯域監視使用時に最低契約帯域に 違反したパケットの出力優先度を示します。 (18) (最低帯域監視未使用の場合(-1)) ● 訂正					(1),auto 有及(<i>2)</i> ;	
rPriority {axrFlowQosOutActEntry 18}		avrFlowQosQutActMinOvo	INTEGER		・	• •*2
{axrFlowQosOutActEntry 18} ます。 (18) (最低帯域監視未使用の場合(-1)) ◆ 訂正	441	•	TALEGER	10/0		
18} (18) (最低帯域監視未使用の場合(-1)) ◆ 訂正						
(最低帯域監視未使用の場合(-1)) ◆ 訂正						
						訂正
	:	:	:	:	:	:

項番	オブジェクト識別子	SYNTAX	アク	実装仕様	実装
			セス		有無
245	axrFlowQosOutActMinOve	INTEGER	R/O	最低帯域監視使用時に最低契約帯域に	•
	rDiscard			違反したパケットのキューイング優先	
	{axrFlowQosOutActEntry			度を示します。	
	22}			(14)	
				(最低帯域監視未使用の場合(-1)) ◆	訂正
:	:	:		:	:
250	axrFlowQosOutActMinOve	INTEGER	R/O	最低帯域監視使用時に最低契約帯域に	•
	rDscp			違反したパケットの DSCP 値を示しま	
	{axrFlowQosOutActEntry			す。	
	27}			(063)	
				(最低帯域監視未使用の場合(-1)) ◆	訂正
:	:	:	:	:	:
265	axrFlowQosOutActPremM	INTEGER	R/O	最大帯域制御での重要フローのバース	
	axRateBurst			トサイズ(Byte)を示します。	
	{axrFlowQosOutActPremE			(0131,072)	
	ntry 4}			(最大帯域制御での重要フローのバース	
				トサイズ未使用の場合(-1))	訂正
266	axrFlowQosOutActPremMi	INTEGER	R/O	最低帯域監視での重要フローのバース	
	nRateBurst			トサイズ(Byte)を示します。	
	{axrFlowQosOutActPremE			(0131,072)	
	ntry 5}			(最低帯域制御での重要フローのバース	3
				トサイズ未使用の場合(-1))	訂正

4. サポートMIBトラップ (P363~P385)

(1) 4.1 サポートトラップおよび発行契機【訂正】

「表 4-1 サポートトラップおよび発行契機 (P366)」を訂正します。

【訂正前】

表 4-1 サポートトラップおよび発行契機

項 番	トラップの種類	意味	発行契機	実装 有無
15	bgpEstablished 【OP-BGP】	BGPリンク確立	BGP プロトコルで FSM (Finite State Machine) が、Establish 状態になったとき。	•
16	bgpBackwardTr ansitions 【OP-BGP】	BGP リンク切断	BGP プロトコルで FSM が closed 状態になったとき。	•

表 4-1 サポートトラップおよび発行契機

項 番	トラップの種類	意味	発行契機	実装 有無
15	bgpEstablished 【OP-BGP】	BGPリンク確立	BGP で FSM (Finite State Machine) が, Establish 状態になったとき。	•
16	bgpBackwardTr ansition 【OP-BGP】	BGP リンク切断	BGP で FSM が closed 状態になったとき。	•

(2) 4.2 サポートトラップ -PDU内パラメータ【訂正】

「表 4-2 サポートトラップ-PDU 内パラメータ一覧 (SNMPv1 の場合) (P373)」を訂正します。

【訂正前】

表 4-2 サポートトラップ -PDU 内パラメーター覧(SNMPv1 の場合)

項	種類		トラップ PDU データ値							
番		enterprise	agentaddr	generic-	specific-	time-stamp	variable-bindings			
				trap	trap					
15	bgpBackward	bgpTraps ∅	特定の IP	6	2	sysUpTim	bgpPeerLastError,			
	Transitions	オブジェク	アドレス			e の値	bgpPeerState			
	【OP-BGP】	ト ID	*							
		1.3.6.1.2.1.								
		15.7								

表 4-2 サポートトラップ -PDU 内パラメータ一覧(SNMPv1 の場合)

項	種類	トラップ PDU データ値					
番		enterprise	agentaddr	generic-	specific-	time-stamp	variable-bindings
				trap	trap		
15	bgpBackward	bgpTraps ∅	特定の IP	6	2	sysUpTim	bgpPeerLastError,
	Transition	オブジェク	アドレス			e の値	bgpPeerState
	【OP-BGP】	ト ID	*				
		1.3.6.1.2.1.					
		15.7					

「表 4-3 サポートトラップ-PDU 内パラメータ一覧(SNMPv2c/SNMPv3 の場合)(P381)」を訂正します。

【訂正前】

表 4-3 サポートトラップ -PDU 内パラメーター覧(SNMPv2c/SNMPv3 の場合)

項	種類	トラップ PDU データ値				
番		Variable-Binding	Variable-Binding	Variable-Binding [3∼]		
		[1](SysUpTime.0)	[2](SnmpTrapOID.0)			
15	bgpBackward	sysUpTime の値	bgpBackwardTransition	bgpPeerLastError,		
	Transitions		sのオブジェクト ID	bgpPeerState		
	【OP-BGP】		(1.3.6.1.2.1.15.7.2)			

表 4-3 サポートトラップ -PDU 内パラメーター覧(SNMPv2c/SNMPv3 の場合)

項	種類		-タ値	
番		Variable-Binding	Variable-Binding	Variable-Binding [3∼]
		[1](SysUpTime.0)	[2](SnmpTrapOID.0)	
15	bgpBackward	sysUpTime の値	bgpBackwardTransition	bgpPeerLastError,
	Transition		のオブジェクト ID	bgpPeerState
	【OP-BGP】		(1.3.6.1.2.1.15.7.2)	